令和7年度
まちづくり懇談会
実施報告書

企画政策課 広報広聴係

令和7年度まちづくり懇談会

実施期間：令和7年6月24日（火）から7月11日（金）まで

実施回数：4回

意見・提案数：52件

開催期日・会場

開催期日	会場	意見等（件）
6月24日（火）	伊王野基幹集落センター	8
7月1日（火）	芦野基幹集落センター	11
7月8日（火）	高原公民館	7
7月11日（金）	ゆめプラザ・那須	14
—	事前質問	12
計		52

期日	会場	意見・提案等	備考
6/24	伊王野基幹集落センター	1 小中学校部活動の地域移行について……………P4 2 東部方面振興策の取り組み状況について……………P8 3 防災無線について……………P10 4 中央テニスコートとクラブハウス含む周辺環境の改修、改善について……………P11 5 町バスについて……………P14 6 町補助金の柔軟な活用について……………P15 7 小中学校の部活動の助成金について……………P17 8 まちづくり懇談会の開催について……………P18	
7/1	芦野基幹集落センター	1 人口減少と出生率の低下について……………P19 2 廃屋問題について……………P21 3 学校・公民館のトイレ改修について……………P23 4 県道 72 号線について……………P26 5 町バスについて……………P27 6 自治会以外の広報紙配布数と廃棄数について……………P28 7 避難所の開設について……………P29 8 コミュニティカレンダーについて……………P30 9 宿泊税について……………P31 10 ボランティア活動研修等の予算確保について……………P33 11 那須町 PTA 連絡協議会の事務局について……………P34	
7/8	高原公民館	1 荒廃放置住宅について……………P36 2 那須ロイヤル高原マルシェについて……………P38 3 広域避難所の看板設置について……………P41 4 通学に使う道路の安全確保について……………P42 5 自然と開発の持続可能な共生のための仕組み作りの必要性について……………P44 6 会計年度任用職員の募集、応募、選考採用の在り方について……………P47 7 那須消防署湯本分署の建物について……………P52	
7/11	ゆめプラザ・那須	1 社会福祉協議会の相談体制について……………P54 2 婚活関係企業、会社情報交換について……………P55 3 女児のいる家庭への生理用ナプキン助成について……………P56 4 町バスについて……………P57 5 町有地公園の管理について……………P58 6 県道 211 号高久駅周辺安全確保について……………P59 7 義務教育における英会話教育について……………P61 8 自治会会員減少により地域活動の難しさについて……………P63	

7/11	ゆめプラザ・那須	<p>9 高齢者専用の会社づくり(要支援の方など)について……………P65</p> <p>10 那須町小中学校部活動地域展開について……………P67</p> <p>11 スマートインターの周辺の整備状況について……………P70</p> <p>12 幼児用ブランコの設置について……………P71</p> <p>13 会計年度任用職員の募集、応募、選考採用の在りについて……………P72</p> <p>14 黒田原駅のエレベーター設置について……………P75</p>	
	事前質問	<p>1 健康ポイント事業について……………P76</p> <p>2 吟詠の普及方法について……………P77</p> <p>3 道の駅那須高原友愛の森について ……………P78</p> <p>4 居場所づくりについて……………P79</p> <p>5 商業施設の誘致について……………P80</p> <p>6 おむつ券の交換可能商品の拡大について……………P81</p> <p>7 まちづくり懇談会での意見交換について……………P82</p> <p>8 緑の保護と伐採開発について……………P83</p> <p>9 旧黒田原郵便局の建物保存について ……………P84</p> <p>10 避難場所変更について……………P85</p> <p>11 町民に広く開かれた町政について……………P86</p> <p>12 町内の農業について……………P87</p>	

6月24日（火）伊王野基幹集落センター

1 小中学校部活動の地域移行について

（生涯学習課）

（質問者）

小中学校の部活動の地域移行についてお伺いしたいことがありますのでお願いいたします。

小中学校の部活動の地域移行は町の説明にも取り組みが書いてありますが、国においても目指す方向性や姿というものがスポーツ庁のホームページにもございます。令和5～7年度が改革推進期間で、令和8年度から地域クラブ活動の充実ということがホームページには書いてありました。

一方、地元の小学校ではこれまでスポーツ少年団として学校の教師と保護者が連携して部活動の指導を担ってきました。しかし、令和7年度から学校の先生から「勤務時間外には部活動の指導はできませんよ」という説明をいただきました。

私も伝え聞いたことなので正しい表現かわかりませんが、教師の働き方改革は十分理解しておりまして、今まで学校の先生には過重な負担をかけてきたと思います。時間外や休日にもこれまでは学校の先生には指導や引率などをおこなって過重な労働ではあったとは十分認識しております。

一方で部活動に取り組みたい子どもさんや保護者の皆さんが、急になかなか地域移行といっても、部活動を地域で受け入れる、そういったクラブ、そういったものがまだまだ那須町などは比較的田舎の地域ですから充実されていないという課題があって、どうも、運動をやりたい子どもたちが取り残されてしまうのではないかとこのところが、私どもが心配するところでございます。

現在、那須町において、この小中学校の部活動の地域移行、具体的にはどのような取り組みをなされていて、今後どのように持っていくお考えなのかというところをお尋ねしたいと思います。

（町長）

町では学校部活動の地域展開を推進するために小中学生を中心に誰もがスポーツ、文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、地域に根差したスポーツ、文化芸術活動の環境作りを図るため総合型地域スポーツクラブの設立を目指しているところであります。この総合型クラブは、子どもから高齢者などさまざまなスポーツや文化活動を愛好する人々、初心者からトップレベルまでそれぞれの志向、レベルに合わせて参加できるという特色を持ち、地域住民により自主的主体的に運営されるものでございます。

このクラブによりまして、当初は中学生の部活動の地域展開を主な目的で行いますが、将来的には小中学生だけでなく他の世代もスポーツ、文化芸術活動ができる環境を整備していきたいと考えているところでございます。

これに先立ちまして、5月29日に総合型クラブの設立に向けて設立準備委員会を発足いたしました。第1回の会議は設立後の安定的かつ魅力ある総合型クラブの運営に必要な運営費の確保そして指導者の確保、活動場所の確保、大会参加の確保

などの課題について共通認識を図りました。

その他今年度の取り組みといたしましては7月から始まる休日活動の移行テスト事業をはじめ、来年の夏までの設立に向けて多くの課題について協議を重ね部活動を地域で支える仕組みを構築してまいります。

なお、令和7年度の予算につきましては部活動地域移行コーディネーターの配置、設立準備委員会の運営費、そして地域移行検討協議会の経費等、約600万円の予算措置をしております。設立準備委員会の運営費には移行テストの準備にかかる指導者の報酬も含まれております。

今そのような形で進めているところでございます。

(質問者)

よくわかりました。

私は、心配しているのは、那須町は田舎といいますが、都市部と違って民間のクラブ、子どもたちを運動に導くような民間のクラブがほとんど無いと言っても等しいと思います。

都市部であればさまざまなものがある、子の親が、経費負担はかかりますけれども様々な運動に接する、その機会を自ら希望すれば得られます。那須町は過疎地域でそういったクラブが充実していない。これは仕方のないことだと思います。しかし、同等にとまではいきませんがスポーツに親しむ機会、文化芸術に親しむ機会、優秀な指導員のもとでそういった体育活動ができる機会というものが都市部と田舎の小中学生で差があってはよろしくないと思います。そのようなことは町当局も十分認識なさっていると思いますが、ぜひよりよい方向にむけて小中学校の部活動の地域移行を進めていただきたいと思っております。

これまで、県北の地域は学校の先生方に非常に負担をかけて部活動が盛んに行われていたようで、栃木県の中でも特にこの県北地区はそういった対応をしている、これはこれで大変素晴らしいことだったとは思いますが、しかし、急にそういった環境が失われる子どもたちや保護者、その推進期間の中で、空白の時間ができてしまうのではないかとこのことを危惧しております。

ぜひ、十分なお対応をお願いしたいと思ひまして発言させていただきました。ありがとうございました。

(町長)

はい、まさしく第一回目の会議でも、そのような内容があったと聞いております。

やはり、子どもたちが運動をする機会、都会と違ってそういうところがないということは懸念していることではございますので、皆さんの共通認識として、設立にむけて携わっている方々と話をしているところだということはお聞きしています。

このあと教育長の方から説明をさせていただきます。

(教育長)

今日も午前中に、こちらにいらっしゃる議員の皆さんに部活動地域移行、2回目

ですが、那須町の取り組みについて説明させていただきました。やはり議員さんからまだまだ地域の皆さんに情報発信が足りないのご意見をいただいたところがございます。

今後、広報などいろいろな形で情報発信をしていきたいと考えていたところ、まちづくり懇談会でご質問いただいても嬉しく思っているところです。部活動の地域移行についてはどの自治体でも頭を悩ませているところがございます。昨年1年間、部活動地域移行幹事会と協議会を立ち上げまして、那須町に合った地域クラブの在り方を議論してきました。その中で、おっしゃいますように民間のクラブとかそういう受け皿となるところがまったくありません。であれば、はじめに町主導で、総合型地域クラブを立ち上げて、ゆくゆくは自走できるように、自分たちのクラブ運営ができるような形をとろうということで、先ほど町長からも説明がありましたとおり、今回5月29日に総合型地域クラブ設立準備委員会というものを立ち上げたところがございます。

休日の部活動をどう地域移行するかということが大きな課題ですので、今後約1年間お試し期間を設けまして、参加する部活動またはスポーツ少年団には休日指導にあたった方に時給1,300円を支給して指導していただく形をとっていききたいと考えております。

来年8月頃、3年生の大会が終わり、新人戦が始まる少し前には総合型地域クラブを正式に立ち上げたいと思っています。しかし現在、課題がたくさんあります。移動手段はどうか、経済的支援をどうか、やはり会費などがどうしても今まで以上にかかりますのでどうか、また指導者確保など、解決しながら進めていければと思います。どうしても、部活動地域移行というと、皆さん、部活動経験者だと思えますが、それなりのその時のイメージがあると思います。

部活動が地域移行によってクラブ活動と同じように展開するのかなと思われる方がほとんどかと思いますが、私はむしろ、那須町で目指しているものはもう少し違うクラブ化したものです。今までは、平日も休日も野球なら野球だけであったと思いますが、これからは、例えば平日は2日、休日は1日など子どもたちが話し合って決めて、どんなチームを作りたいか、それによって練習日数なども変わってくる、空いた時間は別なスポーツ、または文化などに挑戦できる。また、わいわい学習フォーラムで子どもたちの豊かな放課後の体験活動ということで話しあったときに、スポーツだけではなく「自然体験もいいよね」「キャンプもいいよね」「釣りもいいよね」そのような話がたくさん出ました。

そういったものを立ち上げる方がいれば、思う存分好きなことを経験できるようなそのような総合型地域クラブにしていけたらと思っています。

まだまだ先は長いのですが、おっしゃったように試行期間というのがございまして、その時は休日だけではなくて平日もやる。国のほうでいいますと「2031年までにすべての部活動を地域展開できるようにしろ」ということですので、まだ先がありますが、那須町としましては、しっかり子どもたちが希望すればいろんな活

動ができるようなクラブに作り上げていきたいと思っているところです。また何かご意見がありましたらいろいろな機会を通して聞かせていただけたらと思っております。

2 東部方面振興策の取り組み状況について

(企画政策課)

(質問者)

昨年度このような懇談会の中で申し上げた経過があると思いますが、東部地区、特に芦野、伊王野地区に対する町の具体的な支援策が見えてこないと思います。

特に町の顔としては町長がおっしゃる友愛の森がメインになりますので、大小のいろいろな支援なり事業の展開については理解できますが、そればかりではなく先ほどお話があったロープウェイの延伸計画もされているなんていうことになりますと、ますます那須地区方面のほうが非常に良くなりつつあるのかなど。それにひきかえ、伊王野芦野地区については立ち遅れていくのではないかと懸念をしています。

しかし、特に私は伊王野に住んでおりますので、伊王野にも、埋もれた観光施設というものではないかもしれませんが、観光につながるような内容のものがいくつか散在しています。私がもう少し若ければ積極的にそれらを掘り起こしたいと思いますが、何しろ年が年なのでなかなかできません。できれば東部地区にあります歴史的な観光につながるような施設を発掘して、那須に次ぐ観光施設として活用できるような取り組みをお願いしたい。そうすることで那須ばかりだけでなく、東部も、今は情報化時代ですのでいろいろな情報が錯綜していますが、やり方によってはウケていくものもあると思います。

今後は地域における振興策を、最初からすぐにできることではないとは思いますが、我々も協力しますのでぜひそういった取り組みを今年からお願いしたいと思います。

(町長)

芦野、伊王野地区は多数あります、歴史・文化資源、河川・田園風景など良好な景観、それらを生かしたまちづくりを進めていければと考えています。

具体的な事業といたしましては、令和7年度は道の駅東山道伊王野の水車の前方に設置してありますテントを撤去いたしまして、利用者の利便性の向上のために、常設型のポーチとテラスを設置いたします。また、今後の取り組みといたしましては、伊王野小学校の跡地の利活用について昨年度地元の皆さんと意見交換を行いましたので令和8年度の事業化に向けて関係各課で協議を進めているところでございます。

また、先ほどの、湯本方面が観光に特化しているのではとお話いただきましたけれども、確かに私は観光から種まきをしてきております。観光の種まきが済んできておりますので、今度は農業、林業、畜産、商工業などに種まきをしたいと思っています。ただ、観光と農業関係は、那須独特の地域としてコラボレーションしていきたい。両方を合わせもった町づくり、もともとの基幹産業は那須町だけではなく全国的に農業がでございますので、都会の方々にもその辺はPRしていかなければならないと思っています。そのためにまず観光が前に出てきておりますけれど、そこは今しっかりと種まきをしているところでございます。

この地域におきましては、深掘りしていかなければならない歴史文化がございます。

そして、道の駅ですが、今後は、東山道伊王野に関しましても同じように考えております。先ほどの宿泊税の件で観光地に特化したということで、那須地域だけという思いが伝わったかもしれませんが観光地としては那須町全体が観光として私は考えております。先ほどの説明の中の道路のインフラ整備、また、人材の育成の件、こちらも観光道路としてすべてに網羅していきたいと思っております。

また、宿泊していただいた方よりお預かりさせていただきます税金については、3億円程度入ってくると予想されますが、それらを観光に優先的に使わせていただきます。今まで観光以外に回っていたものを、それ以外の費用に、子どもたちの教育とそれ以外に、別のほうに考えていけることにもなろうかと思えます。

すべてとは言えませんが、観光は高原地区だけという考えを私も持っておりません。言葉的に、いつも観光から出てくると思われるかもしれませんが、私の家ももともと農家でございますので、農業と観光は結びつけて持っていきたいと思っております。

また、林業につきましても、那須の林業は県北でも注目されております。全国でも、森林組合長が講習会等を行ってくださったため、那須は注目を浴びております。全体的に那須町にはいい風が吹いていると思えます。

すべてにおいて那須町は注目していただいております。けっして私はピンチだとは思っていません。ピンチをチャンスに変えられる那須町だと思っておりますので、これからも皆さんと一緒に力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、今のようなご意見はどんどん聞かせていただきながら進めていきたいと思っております。

3 防災無線について

(総務課)

(質問者)

今から3年ぐらい前になると思います。防災無線についてうちの集落で町へ要請した経過があります。議会に陳情したわけですが取り上げてもらえませんでした。その代わり防災ラジオなどいろいろな話があったのですが、その後一向に防災無線についての対応が出てこないです。まして災害問題が叫ばれている中で、今の町が設置している防災無線機が非常に聞きとりづらいです。これはうちの地域ばかりではなく町内からもそういう声が聞こえます。ですから、どのようになっているのか、この問題についてどう進めていくのか、電話でももらえれば大変ありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

(町長)

防災無線の件は、「後で結構ですよ」というお話をいただきましたけれど、この件に関しては以前に何度か問い合わせがございました。防災無線が聞こえない、ボリュームをあげると近所の方がうるさくて迷惑等いろいろございます。また、風向きによって聞こえる日と聞こえない日があったりということもございます。

町としましては、皆さんの携帯電話に町の電話音声案内を登録していただくよう勧めております。防災無線が流れたときに電話をかけていただくと同じ音声が行くようになるようになっております。

また、携帯電話ではなく固定電話を登録をしていただくと町からかけるシステムもあります。こちらはまだPR不足かと思っておりますけれど、進めてまいりたいと思います。

そして、建物が高气密高断熱化しているものですから、窓を閉めてあった場合や屋根が瓦だったりすると雨の音も聞こえないぐらいなので、外で防災無線が鳴っているのが聞こえないということもございます。これからもいろいろな方法を考えながら、すべての皆さんに届くように検討してまいります。よろしくお願いいたします。

※電話音声案内＝那須町防災行政デジタル無線

※固定電話の番号登録＝なすまち緊急情報伝達サービス

(総務課)

今、町長が述べたとおりですが、行政防災無線はサイレンは聞こえますが、話の内容は雨や風がありますとなかなか聞こえない。聞こえやすいよう声質やスピードなどなるべく工夫はしていますが限界があります。スマートフォンをお持ちの方にはそちらに情報が送られる、スマートフォンをお持ちでなければ家庭の電話を登録していただき、自動的にこちらから発信する、そういったことで対応していくように進めています。定期的に広報紙などでもお知らせさせていただいております。また、広報紙以外でも内容がわかるものをお渡ししたいと思っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

4 中央テニスコートとクラブハウス含む周辺環境の改修、改善について

(生涯学習課)

(質問者)

那須町の中央テニスコートについて質問させていただきます。

平山町長とは、2019年に1度この件に関してご挨拶をさせていただいた機会がございます。その当時に今の町のテニスコートの経緯についても説明させていただいたところ です。

那須町には今現在、中央テニスコートに5面クレートコートが存在しております。クレートコートというのは土のコートで、今現状は前の日に雨が降ってしまうと翌日にも使えない。一般的に、人工芝に砂を混ぜたオムニコートが主流になっておりまして、県北地区の市町でオムニコートがないのは那須町だけです。

クラブハウスにつきましても、トイレがいまだに汲み取り式でありまして、非常に不衛生であるというのが現状です。

那須町のナイター教室を私、那須町テニス専門部の方でやらせていただいておりますけれども、ナイター設備の方もいまだに白銀灯。コインで時間がくるとサインが点灯して、コインを追加しないと切れてしまう。白銀灯のため1回切れてしまうと、点灯するのに10分以上時間がかかって、レッスン時間が1時間半ですが10分間使えなくなってしまうというような現状であります。

オムニコートについては、余笹川の公園の中に一度テニスコートを建設予定ということで図面も予算もありました。ただ、2011年の東日本大震災によって余笹川の氾濫もありましたし、予算的なものもあって立ち消えになりました。

そのあとに、旧田中小学校の跡地に建設予定、前町長の高久さんが立案されて、こちらのほうも図面もあり、広報紙にもりぼーる・たなかの中にクラブハウスということで建設までは談話室として使えるということを明記してあります。しかし、高久町長の病によって町政に問題がありましたので、こちらもち立ち消えになってしまったというのが現状です。

いろいろな方がテニスコートについて、いろいろな課にご相談に伺っていると思います。生涯学習課のほかにもいろいろ話をもちかけて、古くから、こちらの那須町の方でテニスをやっていらっしゃる方が働きかけをされています。

私、千葉から那須町の方に定住して30年になりますけれども、幼少からテニスと携わっておりまして、今大田原テニス協会の事務局長をさせていただいております。今月の初め、6月1日にはヨネックスさんとコラボレーションをしまして、プロを2人招聘して、テニスクリニックを行っております。こちらはテニスコートが最低でも5面必要で、参加者が大田原市民、那須塩原市民、那須町民、合わせて150名が参加しています。

イベントとしては那須町で大会があります。那須町シングルス、ダブル、ミックス、年3回ありますが、こちらもち1大会、男性30名、女性20名、計50名以上の方の参加があり、埼玉、茨城から那須に観光を兼ねてくるという参加者が非常に

多い。ただ、大会が開けない。あちらの中央コートでは開けないのが現状でございますので、黒磯の「石川スポーツグラウンドくろいそ」のコートをお借りして、大会を行っているという形になります。那須塩原市の方からは、「なんで那須町の大会を那須塩原のコートでやるんだ」という厳しい声をいただいております。あちらの事務所からも大会の使用について、那須町の大会の窓口が、私であり家内であり、いろいろやってはいるのですけれども、結構、風当たりが強いというのが事実です。

那須町の今、テニス人口というのも、高齢化もあります。200名程います。去年は県民大会準優勝させていただいて、町からも表彰していただいております。今年もなすリンピックがあり、また県民大会にも参加させていただきます。

我々は決して新しいテニスコートを作りたいと望んでいるわけではなく、大きな費用をかけて作りなおして欲しいということでもなくて、あの中央テニスコートを改修していただくだけで結構です。昔からこちらで育った方が団体で活動されていますが、今の那須町のテニス専門部部長をはじめ、私も、大きな予算をかけて以前のようなコートを作ってほしいと申し上げているわけではなく、中央コートを改修していただくだけで結構です。

現在のコートはロイヤルコートと言われていました。それは皇室が使われていらっしゃることもあったので愛称がロイヤルコートとなりました。でも、今、あちらをロイヤルコートと呼べるでしょうか。クラブハウスにしろ、トイレにしろ。美智子様がお越しになられたときに私の家内も一緒にテニスをさせていただきました。

遠方から観光を兼ねてテニスをしに来られる方が、ホームページでテニスコートを探して、あの中央コートがテニスコートとして出てくるのは非常に悲しいという思いがあります。

先ほど、総合スポーツクラブの話がありましたが、そういうスポーツクラブがないのは田舎特有かもしれませんが、そういう環境設備をしていただくことによって、自然とそういうスポーツを愛する人口が増え、子どもたちの都市部への流出を抑えることなく、那須町いずれにUターンして帰ってくる、ということも目論んだ上でもう一度環境設備についてお考えいただきたいと思い今回提案させていただきました。よろしく願いいたします。

(町長)

中央コートにつきましては昭和55年に整備したものでございます。45年も経過しておりますので、クラブハウスの老朽化が目立っている現状は承知しております。

しかしながら、多くの公共施設につきましては、さまざまな改修や修繕を行う必要性が生じておりますので、順次対応している状況でございます。

今後も必要に応じて、なるべく早めに皆さんに期待していただけるようなコートに修繕していければならないと思っております。

那須町には、各ホテル関係さんで持っているテニスコートが観光地としてはかなりございました。テニス人口が減ってきたときに、町でもテニスコートを持っ

ているホテルさんや事業所さんに相談させていただいた経緯がございます。その時に「ぜひ使っていただければ」という話もございました。1番近くでは芦野温泉のテニスコートです。町で活用させていただけないかという話もあったのですが、社長さんが代替わりしてしまったものですから、今その話は頓挫しているような状況でございます。

また、那須塩原市さんの話と、大田原市さんの話もございました。那須塩原市さんは、国体をやるためにかなりの立派なコートを作られました。今、スポーツに關しましては、お互いに利用できるものを利用してはどうかという話もありますけれども、今のお話を聞いた範囲の中では、黒磯の方々から「那須町の人が利用するのはちょっとどうかということと言われてしまう」ということはこちらもお聞きしております。やはり地域を越えてお互いにというのは難しいのではないかと思います。しかし、グランドゴルフの大会においては那須塩原市、大田原市、矢板市、那須町で開催をしておりますので、お互いにそういうものがあればという考えはあります。

那須町としましても、子どもから高齢者まで、町民1スポーツを掲げており、健康にもつながると思いますので、中央テニスコートにつきましては、今後状況をみながら改修、修繕を行ってまいりたいと思います。

皇室の方にも使っていただいたロイヤルコートというイメージはテニスをしている方に誇りをもっていただいていると思いますので、その辺もしっかりと肝に銘じながら担当課や財政課とも相談しつつ進めていければと思います。

5 町バスについて

(総務課)

(質問者)

私は町バスの運行について質問させていただきます。

女性団体活動しております、いつから町バスが無くなったのかわからないのですが、令和5年度は町のバスに乗って団体に研修にいつてきました。

現在も宇都宮方面ですとか県南のほうへ研修にいこうと思いますが、なかなか個人で乗り合わせができる状態ではないのです。できれば、町のバスを運行してほしいというのが私たちからの提案です。

(町長)

町有バスにつきましては経年劣化につき耐用年数を越えたことから故障による修繕回数が多くなったことなどを理由に、令和6年度に廃車といたしました。

廃車に伴いまして新しい町有バスの購入も検討いたしましたが、長期的な維持管理の経費等を鑑み町有バスの購入は見送ることとなりました。

そのため、現在はバスの借り上げにより各団体等においてはご利用いただいているところでありますが、バス会社の委託料が発生することから町の予算内で利用とさせていただきます。

各団体におかれましても、各担当課とご相談いただきながら進めていただくように考えております。研修等につきましては、町の予算で借り上げをしながら進めている状況ですので、各課にご相談いただきたいと思います。

6 町補助金の柔軟な活用について

(保健福祉課)

(質問者)

私は伊王野地区の高齢者生きがいサロン、サロン笑楽幸しょうがっこうの運営を担当している伊王野地区地域づくり委員会の代表です。

伊王野地区地域づくり委員会は公民館長や自治会長、民生委員などが当職で構成されている全くのボランティア団体です。ボランティア団体が高齢者の生きがいづくり施設の運営を担当していますが、町からの補助金をいただいて運営している状況です。

昨年は1,777人の利用がありました。独居の方や日中独居の方などがサロン笑楽幸にきて笑顔で過ごしたり、日ごろ自宅にいるときにはあんな大きな声で笑わないだろうというような声で笑う姿が見られて、私たち運営する側もいくらか高齢者の方の役に立っていき感じ、頑張ろうと思い今以上の利用を図っていきたいと考えているところです。

そこで町の補助金の柔軟な活用ということですが、どうしてもたくさんの方に利用してもらいたいと思うと補助金の活用の縛りがでてきてしまいます。

例えば利用者が半額300円、600円のお弁当で月1回サロンを開催しようとする。安全確認というのでしょうか安否確認にもなりますし、どんどん高齢者の輪が広がっていくのではと考えていたときに、縛りで「お弁当はダメ」ですとか「食糧費は茶菓子代に限る」とかというところに（補助金に）アンダーラインが引いてあって、それもできなくなってきている。

町で与えられた予算の縛りの中でしか活用できないので残金が出ます。今年は残金が45,000円出ましたが、残金があれば冷凍庫を買って夏は氷を作って、涼しい環境ができるかとか、今パイプ椅子を利用していますけれど、もう少し高齢者向けの椅子を使えないかといろいろな思いはあります。

補助金をたくさんくださいということではありませんが、もう少し補助金を有効に活用したいので、縛りを緩くしていただだけませんかというお願いです。それを担当課の窓口で相談しても、前に全然進まない。私たちの団体以外にも町から補助金がもらっているところがあると思いますがもう少しケースバイケースで柔軟な補助金活用を、私たちも有効に活用したいという思いがあるので、もう少し考えていただけないかというお願いです。

(町長)

私のほうにも、担当課から届いている資料にはそのようなことが書いてありました。

弁当代につきましては、町の補助金交付基準に則り補助金外経費であると答えているのかと思いますが、生きがいサロンとしてこれからは柔軟に考えていく必要があると思っております。

しかし、他のサロンにつきましても、昼食代等は利用者さんから徴収していると

ころがございまして、全ての生きがいサロンに対して考えていかなければならないのだろうと考えています。

また、補助金ももしかしたら別な方向の補助金を出せる方法もあるのかと思いますのでこの辺も担当課と検討できるか確認していきたいと思います。

ただ、補助金というのは継続的な交付を約束しているものではないのです。自立運営が可能になるまでで、自主財源の確保に努めていただくようお願いするものです。おおむね補助金等は年度が決まって3年間等となりますので、持続的な交付は難しいことであろうかと思えます。また、設備等の改修費についてもサロンを立ち上げるときの支援として10万円を限度として補助対象としているところです。積立金や預貯金については補助金交付基準に則って、補助額を上回ることを認めていないところがございます。

「笑う、楽、幸せ」という素晴らしい名前をつけていただいた「笑楽幸」がどんな活動をしているのかを見させていただいて、非常に多くの方が集まっているのも承知しております。本当にこちらのサロンを他の地域の方にも見習っていただいて元気な高齢者が常に集まる集いの場になっていただければなという思いもござい

ます。
今のご意見を参考にさせていただきながら、担当課だけでなく町の中でも方向性を検討させていただければと思います。

7 小学校中学校の部活動への助成金について

(学校教育課)

(質問者)

昨年この場所で、部活動の全国大会の関東大会でバス代、宿泊代がその前の令和5年度までは10分の10出ていたのに対して、令和6年度は10分の8になり、なんとかしてくださいとお願いしたところ、今年度から10分の10に戻していただきました。大変ありがとうございました。言ったかいがありました。

(町長)

できるだけ皆さんの声を活かせるようにはしていきたいと思います。

すべてにお応えできるわけではないですが、財政が非常に厳しいということを私は言いたくありません。できるだけ使えるものは使っていきたい。そのためには町に入ってくるものを多くしなければならぬと思っておりますので、できるだけ国、県に要望活動をしていきたい。

できるだけ手をあげて、いただけるようトップセールスをしているつもりですが、まだまだ他にも補助金、交付金は手を挙げれば出るのだろうなというものもございしますので、そういうところも頑張ってみりたいと思います。地域の皆さんから、他の自治体でこのような交付金をもらっているなどの情報があれば、お聞かせいただければ私も調べてみたいと思います。

また、今日は各課長が来ておりますので私以外で聞いてみたいということがあればぜひお聞きしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

8 まちづくり懇談会の開催について

(企画政策課)

(質問者)

町長をはじめ、議員の皆さん、町の関係者が大勢集まっているのに参加者が非常に少ないです。

昨年度もそうなので、せっかくこのような懇談会を開いて、町長と親しく話をする機会というのはそうあるわけではないので。ですから、このような催しを開いても参加者が少ないと寂しいと思います。せっかく開催するのでですから少し知恵を絞って多くの方が参加できるような雰囲気作りも必要だと思います。

今日来られている管理職の方々是非常に優秀な方々ばかりなので、もう少し知恵を絞って参加できるような雰囲気を作って、町民の意見、声を聞くというのは非常に大事だと思います。

私もできる限りこういう場に参加して自分の考えを述べたり話を聞いたりしたいと思いますので、次回開催から、少し知恵を絞って誰もが参加できる雰囲気を醸し出して、盛り上がる懇談会を実施していただきたいというのが要望です。

よろしくお願いします。

(町長)

昨年もそのお話をいただきました。やはり我々行政のほうでもPR不足なのかと思います。

話をいただいて、確かにという思いの中で、各課の課長がこれだけ来ておりますので各課にいろんな相談があるのではないかと思います。それを各課でも、自分のところでとめずに、地域で懇談会をやっておりますので、ぜひ同じような話を我々執行部も集まる中で、質問していただければという話を各課の職員にもお願いする必要があるかと思います。

各課にいろいろな要望やクレームもあると思います。それを止めずに直接こういう場でお話していただいて、解決できるものはしていきたいと思います。そういうことを含めて来年以降は、PRと同時に各課のほうにもいろいろなご意見等よいものも、また、指導されるものもあるかと思いますので、その辺も含めてしっかりと検討してまいりたいと思います。

今回4会場で開催しますが、近い場所でなくても参加できますので、皆さんには日にちを調整し足を運んでいただければと思います。その辺もPRの一環として伝えていきたいと思います。

7月1日（火）芦野基幹集落センター

1 人口減少と出生率の低下について	(こども未来課・企画政策課)
<p>(質問者)</p> <p>人口減少と出生率の低下についてということでご質問させていただきますが、現在、那須町の出生率っていうのは大体何パーセントぐらいあるのでしょうか。</p>	
<p>(こども未来課長)</p> <p>実績では、パーセントは出しておらず、昨年の出生数は54人となっています。</p>	
<p>(質問者)</p> <p>栃木県知事が、出生率について1.1%を目指すと以前那須町に来られた時に、大きな声で言われていたと思いますけれども、那須町の目標というのは、だいたいどれぐらいにされていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。</p>	
<p>(こども未来課)</p> <p>先ほど実績の方で、パーセントを出しますと1.35%となります。</p>	
<p>(質問者)</p> <p>なぜこんな質問するかと言いますと、ここにおられる方の、大多数の方が結構年配の方です。特に那須町は、65歳以上の方が約43%いらっしゃるということで、10年後になり、高齢者の方もどんどん増えていくと、若い方の負担がどんどん大きくなる。</p> <p>私はPTA会長をしておりますが、私も今年51歳でして、子どもが卒業する、中学校を卒業すると4年後55歳になります。今の小学校の保護者の方は結構若い方が多いには多いのですが、皆さん共働き、しかも、先ほども出ていましたけれども、待機児童ではないですが、学童に預けられないというような意見もいただいているので、働きたくても働けないという方が多くなっていくのかと思います。そういったこと、そういった方々のことを考えないと、この先どんどん先細りになってしまうのではないかと。</p> <p>先ほどもお話したとおり、出生率もすぐには出てこないということだと、あまりそこまで深く考えてないのでは、というところがあります。私自身がもう一人子どもを作ればいいのしょうけれど、なかなかそういうわけにもいきません。自分の子どもたちが子どもを産むと考えたときに、那須町で果たしていいのかと考えると、那須塩原市や大田原市に出ていかなければいけないのか、そこまで先のことを考えなければいけなくなってしまうのかと少し寂しい部分があります。ぜひ那須町で魅力ある、例えば子育てしやすい環境、また、本当に子どもを産みやすいといえますか、特に子どもを産んだばかりの女性に対して手厚い保護など、そういったところを考えていただければどんどん那須町に移住してくる方が増えてくるのではないかと思います。</p> <p>別荘地の方で高齢の方々の方々の人口が増えていると思いますが、なかなか20代、</p>	

30代の方がほかの地区から引っ越してきたというのは聞かないので、ぜひその辺を前向きに考えていただいて、予算配分を取っていただきたいと思いますので、お願いします。

(町長)

子育て環境の整備等についてのご要望かと思えます。出生率をパーセントで出しておらず大変申し訳ありませんでした。町では、毎年何名生まれているという報告をさせていただいておりましたので、パーセントとして出しておりませんでした。これからは出生率のパーセントも出すように心がけていきたいと思えます。

また、子育ての環境についてどうなのかというところでしたが、那須町は他の自治体に比べると、環境の整備および経済的負担の支援といたしまして、子どもの医療費の助成制度、また、産後ケア事業、おむつやおしりふきなどを購入する費用の助成など、子育てをしている家庭を支援していくためのさまざまな経済的支援を、他の自治体に負けないようにしているところでございます。

さらに、小中学校の居場所づくりや保護者の不安や悩みに対しましてサポート体制づくりなど子育て、育児が両立できる環境づくりも今検討しているところでございます。

そして子育て世代が定住し、また、安心して子育てができる環境を整備するための各種施策をさらに推進しており、人口減少と出生率の低下を改善して行きたいと考えております。

子育て世帯の人口減少と出生率の低下に有効だと考えられるアイデアを、今いろいろいただきましたが、ぜひ皆さんからのご意見も、町としては、参考にさせていただきたいと思えます。また、他の自治体でこういうものを行っているということがあれば、そちらも町としても、しっかりと勉強していきたいと思っております。

今日も学校の10年後、これからの学校のあり方検討委員会を、2回目でもございましたけれども、多くの方に集まっていたいただいて田代友愛小学校で開いてきたところでございます。

那須町の子どもは、私は宝だと思っております。その宝を、いかに磨き上げるか、ただ単に子どもは宝だと言っても、その子どもが持っているものを、いかに研いであげて、また磨くことによって輝き方が違うのだと思えます。それを思いながら、那須町の将来を背負ってもらえる子どもをしっかりと行政としては大事にしていきたいと思っておりますので、今後とも皆さん方にもご支援いただければと思えます。

(こども未来課長)

先ほどの出生率は1.35%、目標としましては1.5%としております。

2 廃屋問題について

(ふるさと定住課)

(質問者)

以前にも話したことがあります。廃屋問題について、かなり自分の地区も空き家が多くなっています。解体してきれいにしてくださる方もいますけれども、そのままの状態のところが多くあります。

町としては、おそらく税金を取っているのしょうから、住所などはわかると思います。ただ「あの空き家は荒れた状態になっていますよ」というのではなくて、今ですから、ドローンで写真を撮ったり、状況を写真にしてその地主の方、持ち主の方に案内するというようなことをもう少し、強いアピールをしてもらわないと、周りの人がどうしていいのかわからなくなります。風でトタンが飛んだり、家が傾いたり。町の中だけでもできれば、ご検討をお願いします。

(町長)

確かに町の中に廃屋等が多く見られております。この方々には町からも何度も通知を出させていただいているところでございます。本来、廃屋になる前に再利用ができれば理想ですので、再利用に向けては、町で水道のメーターが動いていないなど、そういうもので利用できるものに関しては貸していただく意思があるか、売る意思があるかということを進めております。

今おっしゃったようにドローンを飛ばして状況を把握しつつ、地域おこし協力隊の方々が那須町に数名来てくださって、その方々で調査をしております。本当に危険な状態においては再利用というのが難しいので、どうしても壊す以外にはないものは壊すにあたっての補助を出しております。

「解体にあたっての補助は出します」ということで通知を出していますが、どうしても廃屋になった家屋の所有者の場合はいろいろな事情があって、そこまで気が回らなかったり、連絡しても連絡が取れない。また、年に一度の税金の通知の時にも極力通知を入れたりはしているところでございます。難しいですけれども、そのままにはしておけない危険な状態ということもあります。ただ、強制的に行政ができない状況がありますので、しっかりと町でも対策を考えていかなければならないと思っております。

(ふるさと定住課)

町長が話した通りで、それぞれご事情がございます。今、廃屋の所有者が特定できているものに関しては、比較的スムーズにいったりするのですが、やはり相続関係では、相続人を特定したり結構時間がかかるといったところでございます。これからも、写真などいろいろ情報提供しながら、所有者と思われる方などに適正管理をしていただけるように、精一杯進めていきたいと考えております。

(町長)

また、少し付け加えさせていただくと、その持ち主の方が、廃屋として認めてくれるかどうかということもあります。もし近所でそういうところがあって、「解体し

てもいいよ」「その方と連絡が取れますよ」という場合には、ぜひお力添えをいただくと行政も大変ありがたいです。行政がつながらなくても、そういう形でつながっていただくと、今言ったように、相続の問題があった場合など、そこに踏み入ることができない時がありますので、そのような時にお力添えをいただければと思います。

(質問者)

補助もあることや写真など、できるだけ今こういう状態ですと常にアピールしていただければ、効果がでるかと思います。よろしくお願いします。

3 学校・公民館等のトイレ改修について

(学校教育課・総務課)

(質問者1)

以前出たかと思いますが、学校のトイレ改修について、今どんな状況なのか。昨日、ニュースでやっていたのですが、日本国内全体で言うと、86%が今の新しいトイレになっているということです。状況としてお聞かせいただければと思います。

(町長)

小中学校の教室につきましては、100%洋式になっております。ただ、体育館と外トイレに関しては、まだすべてが洋式化しているわけではございません。

教室に関しましては、町は急ピッチで休みの期間中に他の自治体に負けないように100%にしようということで進めてきました。ただ、私の方で説明すると、洋式だけではなくて、今これからはウォシュレットの時代という話もいただいております。そちらに関しても考えていく時代になっているという思いは持っております。

ただ、体育館が避難場所として使われますので、学校の子どもたちよりも、避難した時、高齢者が来た時に、やはり洋式でないと使えないということがありますので、こちらも考えております。緊急防災・減災事業債などの使えるお金があるので、そういうものも使いながら、担当課のほうでも検討しながら、そこに手を挙げていきたいということで進めているところです。

しかし、今回は体育館の照明がもう耐用年数的に水銀灯を作らない、球を買えないという時期になってしまいますので、LED化を先に進めているところでございます。

また、子どもたちも運動する時にクーラーということで、各学校にスポットクーラーを2台ずつ入れている状況でございます。ただ、スポットクーラーだけで間に合うかという話になりますが、体育館の場合は断熱効果を持っていないものですから、クーラーを入れても効かない状況になってしまいます。その辺の建物の対策をしてからでないと難しいということも、今調査しているところでございます。

(学校教育課)

どれぐらい洋式化が進んでいるかというところは、先ほど町長から回答がありましたとおり、校舎内につきましては、小中学校すべて洋式化が進んでいるところでございます。外トイレについては、具体的な数は今日手元に資料がなくて大変申し訳ありませんが、ほぼ和式でございます。

また、体育館につきましても、やはり和式の比率が高いという状況の確認をしているところでございます。これらのトイレの改修につきましては、先ほど町長からのお話にもあった通り、順次改修に向けて計画的に進めてまいりたいと考えております。

今年については大変申し訳ございませんが、照明施設、まずは校舎のLED化、

それと併せて体育館の照明のLED化も優先順位を高めて整備してまいります。その他の、トイレの洋式化につきましては今後整備を進めてまいりたいと思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

(質問者2)

先ほど体育館を避難所としても使うということでしたが、公民館や体育館もそうですが、例えば那須町でももう十年ぐらい前に、水害や大災害もあったかと思えます。そういった時のために災害の避難所として使うことも考えていらっしゃる。逆に言うと、何年後に水洗式のトイレにしたいなどそういった具体的な目標値は。

災害に関しては、命を守ることが最優先だと思えますが、命からがら逃げてきて、トイレが苦痛で避難所にいたくなくて、自宅に帰ってしまって二次災害で亡くなってしまおうというのは、あってはならないことだと思います。特に命を守ることに對して、そういうデリケートな部分に関しても、災害、防災に對して、那須町で取り組んでいるということですので、ぜひ早めに取り組んでいただきたいと思えます。例えば目標、5年、10年以内には、全部の指定避難所を洋式にする、水洗化するなど考えをお聞きしたいです。

(町長)

トイレの洋式化がどのぐらいの計画かですが、こちらにつきましては、その年度の予算を持ちながら進めていきたいと思っております。

まずは緊急の避難所として学校を使うことがあるかと思えますが、それ以上に、すべてが整っている場所としては、文化センター、ゆめプラザ、各支所。そこに緊急物資をすべて用意してございますので、まずはそちらに移動するまでの間の体育館の使用ということで考えております。

随時進めていきたいと思っておりますが、まずは校舎関係、子どもたちの場所として、安全安心を先に優先しながら、トイレもそれほど長い時期を持たずに待たずに行いたいと思っております。その後、校舎、体育館の改修工事もしなければならぬ時期に来ておりますので、その辺も含めながらではございますが、やはり私は緊急の避難として使う場所としてはトイレが先だろうと思っておりますので、この辺を計画的に進めていきたいと思えます。なかなか一気にはできませんので、どこの学校からなどもあるものですから、その時には一気にこの学校というよりも、1カ所ずつの振り分けになるかと思えます。その辺も平等性のあるような進め方をしていきたいと思えますので、ご了承いただければと思えます。よろしくお願いいたします。

(質問者2)

ちなみに、先ほどおっしゃった各支所はもう全部様式化されていますか。

(町長)

全部洋式になっております。

<p>(質問者2)</p> <p>那須、芦野、伊王野も全部ですか。</p>
<p>(町長)</p> <p>1つ、和式が残っているというところがございます。</p>
<p>(質問者2)</p> <p>わかりました。ありがとうございます。</p>
<p>(総務課)</p> <p>学校の体育館のトイレ洋式化というのも、優先順位を高めなければいけないのですが、災害もいつ起きるかわかりません。今早急に準備しているのは簡易トイレであったり、車椅子の方でも利用できるポータブルトイレです。なかなかその数が足りませんので他の自治体や県、民間の事業者で50ぐらいの関係団体と協定を結んでおります。トイレトレーラーであったり、その他の簡易トイレ関係をお互いに貸したりする、そういう協定です。そういうものでも対応しようということで、準備を進めております。</p>
<p>(質問者2)</p> <p>先ほどの、自治体と連携しているということですが、この間の地震なんかもそうですが、那須町で災害が起きた場合には、多分その関係者も全部関わってくると思うので、そうなった時には絶対数が足りないと思います。その辺も踏まえて数が大丈夫なのであれば、今、準備されているということでしょうか。</p>
<p>(総務課)</p> <p>今、大きな災害が起きた場合、例えば栃木県全体が被害を受けたということであれば、他県に渡ってお互い協力体制をとるようになっていきます。栃木県がリーダーシップをとりまして、いろいろ動きますが、例えば今回の能登半島地震の被害のようなことがあったとき、栃木県はどこの町に行くなども決めて協力をします。</p> <p>また、例えば南海トラフ地震などが起きたときは、栃木県は香川県に手伝いに行く、こういうものも決めております。事前にそういった協力体制というのは整えておりますので、ご理解ください。</p>
<p>(質問者3)</p> <p>一つ要望させてください。今、避難の関係もありましたけれども、多分支所もそうですし、学校も多機能トイレが必要になってくるかと思います。今、ほとんどの商業施設で必ず多機能トイレというのも設置されている。駅中でももうすべて設置になっています。また、今電車も多機能に対応できるトイレに直していて、町としても、多機能トイレが各施設に必要なのかなと思います。</p>

4 県道72号線について	(建設課)
<p>(質問者)</p> <p>県道72号線の拡張については、町としてどこまで関わっていますか。</p>	
<p>(建設課長)</p> <p>大田原芦野線について、実際に町で確認しているところはありませんが、引き続きご要望等があればお受けします。個別に建設課でもお聞きします。</p>	
<p>(町長)</p> <p>先週、県にいろいろな要望をしてきたところでございます。大田原市から抜けてきて鍋掛から芦野に来る道、そちらに関しては今のところ町からの要望は出していないところです。ですので、もし要望等があれば、町でも動きたいと思えます。</p>	
<p>(質問者2)</p> <p>蛇沢地区や、もちろん芦野地区もそうですが、県道があそこだけ狭くなっていて、寺子から先も狭いです。そこもやはり拡張してほしいという地域の要望があるので、ぜひ町の要望として上げていただきたいと思えます。</p> <p>※蛇沢地区＝現在の豊岡地区</p>	
<p>(町長)</p> <p>わかりました。那須塩原市と接続される道になるかと思えます。那須塩原市さんとも連携をとりながら同じ計画で進んでいただくように進めて行きたいと思えます。</p> <p>今、県道については芦ノ又があと1回の工期で、要望してあるところが終わる予定でございます。一番狭いりんご屋さんのところ、その拡張が終われば、また、別の要望に移らせていただきたいと思っておりますので、随時、皆さんの要望と場所に応じて、町のほうでも要望活動は続けていきたいと思えます。</p>	
<p>(質問者3)</p> <p>あそこは、大田原市の方から来て、ある程度整備はしています。那須塩原市の豊岡地区の人から「富士見峠の狭いところ、そうすればこっちに行くよ」という話はいろいろ聞いていました。</p> <p>その部分は、ぜひ町としても積極的に関わっていただきたい。黒川の手前は非常に狭いです。大きいバスと行き違いができないような感じですので、ぜひあの部分を、町としても苦勞してほしいと思っております。以上です。</p>	
<p>(町長)</p> <p>富士見峠の方に関しましては県道でございますので、那須塩原市と確認を取りながら一緒に要望していかないと、那須町側から先にというわけにはいかないかもしれません。この辺は連携を取りながら、早い段階で要望活動に移りたいと思えますので、ご了承いただければと思えます。</p>	

5 町バスについて

(総務課)

(事務局)

ご意見も出ないようですので、事前にいただいたご意見の回答をさせていただきたいと思います。

まず、町バスについてということで、町民バスがなくなってしまいましたけれども、復活する予定はございますか、ということです。

以前、研修会に行くときに利用させていただいていました。民生委員や女性団体の研修会に行ったとき、〇〇町と書かれたバスを見てこの町頑張っているなど感じましたというご意見ご質問を伺っております。こちらにつきまして、総務課長から説明をお願いします。

(総務課)

それでは、総務課から回答させていただきます。

町バスにつきまして、復活する予定ありますかということですが、これまで所有していたバスが修繕を繰り返しており、修繕費用も高額になってしまうことから、昨年廃止といたしました。今後新しいバスを買うかどうか検討はしましたが、町内や近隣自治体に民間のバス会社があり、事業者などの協力をもらいながら進めて行く方がよいと考えまして、バスは購入せず民間事業者への委託事業に切り替えました。

ご質問にあります、民生委員や女性団体、おそらく保健福祉課や生涯学習課、そういったところが関連するかと思っておりますので、それぞれの担当課との話し合いをお願いします。町として必要な研修は当然みていかなければいけないと考えています。例えば来年、もう決まっているものであれば、できるだけ予算化をしていくよう考えなければいけないと思っていますので、直接担当課とも事情をよく協議していただければと思います。

6 自治会以外の広報紙配布数と廃棄数について

(企画政策課)

(事務局)

続きましてもう一つ事前にいただいた、自治会以外の広報紙の配布と廃棄数についてです。

自治体以外で広報紙を何部くらい配布して、何部くらい廃棄しているのかということ。廃棄数が少なければ、現行のままで、多いようであれば、損失になってしまいますので、そういったところの調査をして、適正な発行をしていただければということでご意見をいただいております。こちらにつきまして、企画政策課長から回答いたします。

(企画政策課)

広報紙ということで、企画課政策課から回答いたします。

自治会以外に、不特定多数の方を対象に広報紙を設置している場所は、町内で39カ所あります。約1,800部配布しておりますが、その廃棄数までは把握していない状況でございました。また、1部あたりの経費につきましてもご質問いただいております。その月の広報紙ページ数により、変動もございましたが、おおむね36円の経費がかかっております。今回ご提案いただきまして、そういった広報紙を設置している場所で実際にどのくらい廃棄になるのか、調査をしていって、無駄のないような広報紙の作成を進めていきたいと考えております。

7 避難所の開設について

(総務課)

(質問者)

頑張っ、一言だけ発言したいと思ひます。

先ほど、災害や避難所の話をしましたが前回の芦野地区の災害の時に、雨がお昼頃から強くなつてきて、最終的に避難所を開設したのが暗くなる頃の午後4時過ぎでした。

それで、開設はしてないけれども避難している人もおり、私がいる時に「早めに開設してくれ」という話をしました。その時はある程度自分が安心して集まれる場所として支所でした。

どうしても行政は、空振りを恐れるのかなという気がしています。空振りがあつたっていいではないですか。

そういうことを心配してしまうと思つたものですから、今後の反省として「このようなことを聞いたことがあつたな」と活かしていただければと思つています。

(町長)

避難所開設は、町としては、空振りは全く気にしておりません。可能性があるときには開設したいと思つておりますが、まず気象庁が雨雲レーダーなどをキャッチし、この可能性が有りますということで、初めてその情報が流れてきます。この情報により、町でもすぐに対応していきたいと思つています。各地域、そのような流れが有りますので、予報をいただかないうちに、開設というのは難しいところがあります。今の天気予報レーダーは当たるといふことで、空振りが多くても、町では避難所の開設はしているつもりでございます。

(総務課)

台風19号(令和元年)の関係ですね。町の避難所の開設、またその連絡するタイミングですが、気象庁から大雨警報など警報が出た時点ですぐに災害警戒本部や大きければ災害対策本部を設置します。一番心配していることが、その警報が出る時間によっては、例えば夕方近くや暗くなってからの避難というのは逆に危険なので、避難情報等は非常に出しづらいです。

しかし、この前の台風19号の時は、確かに時間的にはもう少し余裕があつたのかもしれない。そこは、避難情報を早めに出さなければいけないと思つています。

ここ数年ですが、気象庁でもできるだけ早めに警報を出すような流れになってきました。ですから、逆にこの状況で警報が出たというような状況がここ2、3年は続いています。できるだけ早めの判断で、避難所の開設というのは進めたいと思つています。

8 コミュニティカレンダーについて

(生涯学習課)

(質問者)

毎年、町から小学校、中学校年間予定のカレンダーが出ていました。

今年も楽しみにしていたのですが「今年から廃止されちゃったよ」ということでした。「携帯電話に毎月出てくるのでそれを見てください」と言われましたが、携帯電話はとても小さいです。紙に書いてあると一目でわかります。やはり携帯電話は年をとってくると見づらいものです。今の時代、携帯電話はとても便利だと思いますが、カレンダーなくなってしまったということが残念です。

(教育長)

私も残念に思っています。

すごく喜ばれていました。町内の会議などそういうときにも関係の皆さんに説明をして持っていただいて、「重宝しています」なんて言われました。また、他の市町村に持っていくと、「すごいこれは」と喜ばれていました。

時代の流れがありまして、デジタル化を進めている那須町でございます。できればタブレットの大きい画面を見ていただいてという趣旨で、今回は無くさせていただきました。こういう声が多ければ、また復活もあるかと私としては考えてはおります。このようなお話ありがとうございます。

(町長)

私も本当にいろいろなところから「見やすくいいね、学校の行事がわかるね」と言われていましたので、できればもう一度復活する意味を何か考えたいと思います。

これは学校の子どもたちや学校の関係者にも配布できるものです。那須町には多くの事業者の皆さんがおりますので、コマーシャル、名前を入れさせていただくなど事業者の皆さんの協力を得ながら予算を確保できれば、そのようなことも今思いましたので、努力してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

9 宿泊税について

(税務課)

(質問者)

宿泊税に関してですが、宿泊される方というのはどちらかというと県外の方が多いのかと思いますので、ぜいたく税という意味ではないのではないかという部分もあります。

現在、日本人よりも外国人の方がお金持ちだと言われており、インバウンド、そういったお客様を取り込もうと考えられます。那須町や日光市も含めても、外国の方がたくさんいらっしゃると思います。特に日光市には行ったことがあるけれど、那須町には行っこともないという外国人がいらっしゃる、そういった話を聞いたことがあります。そのような人を取り込もうという考えは現在おありでしょうか。

(町長)

那須町は、世界から注目される観光地づくりを目指しております。高付加価値なインバウンド観光地づくりというものに国から指定していただきました。当時は11カ所、今は14カ所の地域が指定されておりますが、11カ所指定していただいた当時は、関東地域で唯一、この那須周辺地域ということで指定をいただきました。

これに関しまして那須町、那須塩原市、大田原市、白河市などと一緒に組んで外国人に来ていただくことを考えております。東京から入ってきた外国人は、例えば日光国立公園ですと「那須も日光国立公園の中ですよ」という解釈しかないので、東京から入り、日光に足を伸ばし、那須に来て、そしてそのまま東京に帰るという傾向がございます。

今まさに大阪・関西万博がございますので、そちらに入ってくる外国人が大変多いです。大阪から、栃木県に入っていくには、東京経由ではない。大阪の伊丹空港から福島空港まで1時間10分で飛べます。そして福島空港から那須に40分で来られます。そうすると2時間かからずに那須に入ってきて来られる。関西、大阪、京都から入った方へ「関東の玄関口は栃木県的那須町ですよ」「東北の玄関口を福島県の白河市ですよ」ということを含め、大阪市に、白河市長さんとトップセールスに歩かせていただきました。大阪のFMのラジオで生放送にも出演させていただいて、PRをしております。

東京の方々にも理解をいただくために、外国人に多く滞在していただく。例えば、東京から入って東京から出る外国人は、お金を100万円持ってきても、100万円全部を東京で落としていきません。そうであれば、いろいろなところを回ってもらい、最後に東京から出て行くときに、東京にすべてのお金を落としていただけないではないではないでしょうかということで、国内全部が潤うようなPRをさせていただいております。

6月26、27日の全国観光地所在地町村協議会の研究会を那須町に引っ張って来させていただきました。私が今、常任理事をさせていただいている関係で、ぜひ

那須町へということで要望させていただいて、北は、北海道は今年来られませんでしたが、青森、南は沖縄の各首長さん、観光地を持っている方々と意見交換をしました。

その際に、宿泊税に対して国内で一番注目をいただいております。といいますのは、議会の方でも可決をいただきまして今進んでおりますけれども、行政からこの宿泊税を持ってきたのではなくて、旅館組合と観光協会からの要望ということで、町に挙げていただいた経緯がございます。全国で初めて、宿泊する方から預かるというものを行政からお願いしたのではなくて、宿泊業の方から要望をいただいて成立しました。現実には、町民の方からは負担はございません。この那須町に来て泊まっていただけの方にいかに理解を得て、この宿泊税を預からせていただくか。また、その預からせていただいたお金を、観光にもう一度来ていただいた時、何回も来ていただいた時に、おもてなしに使える税金として、例えば道路関係や看板関係などに使わせていただいく。そして、来ていただく方には1日でも2日でも泊まっていた際には、那須町の町民になったつもりで、税金として払っていただければと思います。

一人当たりが出すゴミの量は、事業所から出る量を除くと県内で一番少ないです。しかし、事業所が入ってくると、逆にトップになってしまいます。ですから、そのゴミの処理も皆さんに今まで負担していただいているものがあります。そういうところにも宿泊税を使わせていただきたい。

3億円が宿泊税として入ってくる見込みを持っております。観光にその3億を使わせていただいて、今まで観光に回さなくてはならなかったものを、子どもたち、また高齢者関係などに回せると思っております。あくまでも宿泊する方から預かる税金として、那須町に来た時に町民としての税金としてお支払いをいただければなということです。

事業者の方々には仮でお預かりして納税していただく形になりますが、そういう方々にも、ある程度はその手数料はお戻ししなくてはならないかなという思いを持っております。

また、今カスタマーハラスメントが多く、事業者の方にはクレームが入る場合がございます。その対処に役立てるような講習会も必要かと考えております。言っている人だけでなくそこに一緒にいるお客さんも不愉快な思いをしているというのが非常に多い。一人の方のクレームになるかどうかもありますが、それを対処する方法としても、勉強会などに使わせていただければ事業所の方も、働きやすい環境になるのではないかと、そういうところも考えております。

10 ボランティア活動研修等の予算確保について

(保健福祉課)

(質問者)

お願いします。那須町は少子化、高齢化率も高いです。

私はいろいろなボランティアをしまして、子どもたちのオピニオンリーダーというのをしています。小学校に行きまして、お子さんが健全に育つよう、学習プログラムをボランティアでやらせていただいています。そういう時に自分たちはボランティアなので、いろいろな研修がありますが、研修に行く時には、生涯学習課の方で公用車を出してください。

もう一つ、私はスマイルサポーターというボランティアをしています。那須町の高齢者のフレイル予防、医療費の削減、元気に年を取っていきましょうというボランティア活動です。本当にボランティアで、町のいろいろな公民館に行き、脳トレや体操などの活動させていただいています。ほかの町ではどんなことをやっているのかと研修に行かせていただく時も、やはり公用車がないと自費になってしまいます。町のボランティア、スマイルサポーターなどが研修に行く場合は補助金をよろしくお願いします。

※フレイル=加齢により心身が老い衰えた状態のこと。

(町長)

ボランティア等で活躍していただいて本当にありがとうございます。「こういう形で勉強会をしたい、こういうところに行ってみたい」ですとか「こういうもので町の方々のために仕事をして行きたい」ということをぜひ担当課の方に相談をしていただければと思います。

ある程度企画を作っていただいて、担当課に相談していただければ、財政課の方にも上がってくるかと思えます。できるだけそういうものにはお応えしていきたいと思えます。高齢の方々も多くおりますので、やはり私としては病院などに多く行き医療費を使うよりも、楽しみを持って健康になっていただくことが何よりだと思っています。ぜひ担当課の方にご相談してください。できるだけ、そういう予算も確保できるようにしていきます。担当課の方から上がってくると思えますのでできるだけ頑張りたいと思えます。

(保健福祉課)

そういった研修であったり、スマイルサポーターさんの活動については、町長の方からも話しがありましたけれども、私たちの方でも支援できるところ、お伝えできるところにつきましては、一緒になってやっていきたいと思えます。保健福祉課または保健センターに来ていただきまして、相談をしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

1 1 那須町PTA連絡協議会の事務局について

(学校教育課)

(質問者)

PTA会長をやっていると先ほどお話ししたと思いますけれども、町のPTA事務局を、毎年輪番制で事務局となった学校の教頭先生がやられています。輪番制ですと流れなどがわからない。例えば、一昨年黒田原小学校の教頭先生が初めて事務局をやられたのですが、その時に県からの連絡がうまく届きませんでした。私がいちいち勉強をしたくて全国のブロック大会に申し込みをしましたが、それが間に合わなかったという事例がありました。事務局について他の市町はどういう形をとっているのかと聞くと、学校教育課や生涯学習課、そういったところの方が事務局として一人おり、県から事務局へ話し、その事務局から担当の学校へ言われる、というような形をとっています。その事務局は毎年同じ方がやっているの、毎年の流れがすごくわかっていて、何かに参加したいというときには、学校側から事務局に連絡をすれば、スムーズに流れるというのがあります。那須町はそういうことは今考えていますか。

どうしても、特に学校の先生の働き方改革で早く帰られたりした時に、私はスクールバスを担当しているので、スクールバスが終わってから学校に連絡しようと思った時には、もう学校の先生はいない。学校の先生の個人の携帯電話番号を聞くわけにもいかないの、次の日朝聞きますが、その時には仕事が立て込んでいたりする。

事務局の窓口を学校教育課であったり生涯学習課で一人置くということは、那須町では不可能なことなのでしょうか。

(教育長)

那須町PTA連絡協議会の事務局のお話ということでよろしいでしょうか。

現在、那須町PTA連絡協議会の事務局というのは、順回りでやっています。おっしゃいますように一年担当したら交代です。確かに事務局に慣れないうちに終わってしまうというといったデメリットはありますが、同じところがずっと持たなくて済むというメリットもあるのかと思います。

デメリットの部分に分からないで、例えば研修の申し込みが遅れてしまう、そういったものに関しては、本当に申し訳ないと思います。また、ほかの自治体について、生涯学習課の方などの職員が事務局の一端を担っているというのは、私は今初めて聞きました。

(質問者)

そうですね。どこの市町でやっているのかというところはわからないので確認します。

(教育長)

私のほうも確認したいと思います。

これは余談ですが、PTA連絡協議会そのものがなくなってしまっている自治体

があります。それが現実です。那須町は残っていて、校長先生方、PTA会長さんが会議を行い、予算もとってありますので、本当に私としては感謝しているところです。よりよい方法が考えられるということですので、私も事務局が町や市にある自治体があるか、確認してみたいと思います。

7月8日（火）高原公民館

1 荒廃放置住宅について

（ふるさと定住課）

（質問者）

荒廃放置住宅につきまして、発言させていただきます。

せんえつでございますが、現状の写真を撮ってまいりましたので、このような現状だということを皆さんに知っていただきたく、資料をお持ちいたしました。ここまでボロボロになると一体どうしたものかと、もう20年も訴え続けておりますが、なかなか進捗しない。そして、ここは自在荘さんや山水閣さん、グランドホテル愛寿さんなどが、軒を連ねている観光のメインでございまして。うちもその近くにあり観光客の方もよくそこを通られます。本当にこんなところをお見せしたくないということもありますし、また、よくわかるのは冬です。冬、雪が積もりまると、動物の足跡がそこからうちの方にも来ているのがよくわかります。夏ですと足跡もわかりませんが。そして、お風呂へ行くと大きな動物と出会ったりします。それはイノシシですね。そういう動物と出くわしてしまったりすると、本当に危険なのでなんとかお願いして綺麗に、また、危険がないようお願いしたいと思います。資料も出ささせていただきましたのでご検討をお願いいたします。

（町長）

私からお答えさせていただいて、足りない分は担当課の方から説明させます。

以前からご連絡をいただいている物件につきましては、令和2年度にふるさと定住課に引き継ぎをさせていただいております。今現在、ふるさと定住課で所有者と連絡を取りながら対応中であり、所有者が対応を検討してくれている状況であることを聞いております。

また、その他にも那須町には数多くの廃屋、荒廃放置住宅がございまして。こちらにつきましては、なんととっても防災、そして防犯、景観の悪化、さらに、衛生の観点から深刻な社会問題となっていることは把握しており、町といたしましても対応に取り組んでいるところでございまして。空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、所有者に建物の適正管理の通知をまめに送付しているところでございまして、対応していただけないところもございまして。観光をメインにしている場所においては、特に目立つところがあるということ、また温泉がございまして傷みも早いということも担当課でも承知しております。

所有者へ継続的な働きかけを行っているところでございまして、改善に至っていないのが現状でございまして。さらに、いろいろな面からその所有者の方に当たっていきたくと思っています。

これほど廃屋になっているところは無理ですが、ふるさと定住課では、空き家になっている場合には、再利用や売りたい方、貸したい方がいればそこにも繋げていきたいということで悪戦苦闘しながら対応しています。また、土地の方も売りたいという方が多く来たりしますが、なかなか土地に関しては行政の方で手を出せません。

町で要請し多くの地域おこし協力隊に入ってきていただいています。その地域おこし協力隊の力を借りながら、廃屋までいく前の空き家の対策は講じているところでございます。廃屋になってしまった場合には、繰り返しになりますが、所有者の責任で片付けていただければならないということ、所有者が不明な場合や家庭の事情で一人の方の持ち物ではないことがあり、追いついていかないところでございます。

これからも、町として一生懸命対応させていただきながら、少しでもスピード感を持って、廃屋撤去に向けては進めていきたいと思っております。繰り返しになりますが、防犯、防災、ここを非常に懸念しているところでございますので、そのような形で進めていきたいと思っております。担当課から付け加えることはありますか。

(ふるさと定住課)

内容につきましては、町長からの回答のとおりになります。ふるさと定住課としても、空き家対策につきましては重要なものだと考えております。先ほど町長が述べたように、地域おこし協力隊などを活用しながら空き家対策を今進めているところでございます。今回いただいた資料につきましても、もう一度事務所で現状を確認しながら、所有者を調べるなどを行い、できるだけ撤去いただけるように通知等を出しながら進めていきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。

(質問者)

ぜひスピード感を持ってお願いしたいと思っております。ありがとうございました。

2 那須ロイヤル高原マルシェについて

(観光商工課)

(質問者)

まずは高原マルシェとレストランの建設おめでとうございます。町民としても、期待しているところです。それで、式典も賑やかにきちんと思うたら、高原マルシェの時はテントもない日向のところ丸出しで、熱中症になるのではと心配しながら、僕は木の日陰で見えていました。総務課にも「もう少しちゃんとした方がいいのではないのでしょうか」と話をしました。そうしたら「次にレストランができたらちゃんと賑やかにやります」ということで、我々も自治会の会長はすべて招待があり、賑やかに、そしてこれから繁盛をするようにやっていくのかなと思っていました。残念ながら何の連絡も無く、いつできたのかなということでありました。

それはともかくとして、一番は管理業務委託の選定基準があったのか、その契約者の選定をどういうふうにしたのか聞きたいと思います。

(町長)

オープンのセレモニーが少しこじんまりだったのではないかとということで、来ていただいたのは、私も拝見しておりました。ありがとうございます。

今の管理業務についてですが、隣にまだ建物はそのままですが、旧なすとらんがございました。レストランの方につきまして説明させていただくと、旧なすとらんの管理は経済4団体に入っていておられます、那須未来株式会社です。那須未来株式会社は行政と経済4団体の商工会、JA、観光協会、森林組合に入っていて管理しております。こちらが引き続きレストラン、那須ロイヤル高原マルシェを一元化して管理をしているところでございます。

(質問者)

委託料の金額とか、それから家賃はどのようになっているのか、説明をいただきたい。

(観光商工課)

委託料につきましては、令和7年度は那須未来株式会社へ管理運営費として4,100万円でございます。

(質問者)

家賃はどうなっていますか。

(観光商工課)

家賃につきましては、その建物ごとに算定しており、家賃をいただいております。

(質問者)

それは建物ごとにどういうふうにならうに何をいただいておりますか。

(観光商工課)

那須未来株式会社から那須町に家賃をいただいております。

(質問者)

那須町が業務委託ですから、家賃は入れないといけないのではないですか。株式会社だから利益になってきてしまうでしょう。税務上も大変ではないですか。その辺のところをはっきりしないと、やはりまずいですよ。考えてみてください。那須未来というのは、観光課と町の共同出資でしょう。ちがいますか。

(観光商工課)

町と経済4団体と出資している会社でございます。

(質問者)

補助金とかを出しているのでしょうか。出していないのですか。観光課に観光を推進してくださいと。

(企画政策課)

第三セクターというところで、那須未来株式会社に関しては、町が出資をしていますが、その運営に関して補助したりはしていません。ですので、実際は町から業務を委託して、その委託料としてお支払いしているというのが現状でございます。

(質問者)

そうすると、新しく管理事務所を作っているのではないですか。その時、売り場が少ないから「作ってくれ、作ってくれ」と町民から要望があって、僕はそれで作ったのかなと思ったのだけれど、それにしてははずいぶん小さいなと思いました。

中はスリッパで入れるしなんだろうと思ったら、株式会社那須未来ということで、管理業務やっていますと。どんなことやっているのかなと思いました。

アルコール消毒がちょうどあの時に無かったからおかしいなど、管理しているのにどういうことなのかということで管理事務所に行ってきました。そうしたら、「ああ、そうですか」とスリッパでやってきて。やっていることが、全然町民のための利益になってないというふうに思っていますよ。スリッパ姿でいることはいいです。少し話してからまた各セクションの問題については質問したいですし、説明したいです。

僕は大体、できるとオープンの時から見に行きます。どういうふうになっているのかなと。建物だってそうですよ。建物がどんな、誰が考えて、どういう意見でああいう建物だったとか、そういうのもなかなかわからない。いろいろ聞いたら委員会があるという話でした。その建物の改築というのですか、建物も町から頼んでいる、選任しているということですが、その選任者がどれだけの知識があるのか、どのようなことなのか、そういうことから考えてやらないと、町の道の駅作ったけれど、負けてします。今の道の駅はすごいです。レストランだって、フードコートが12店舗も入っています。利益も上がっています。それから、後でまた言いますけれど、あるところでは米も入れ放題、時間がありますが500円で入れ放題。人気があります。そういうこともやはり考えるのは、いろいろ民間で経験した人が運営しているからこそできるものです。すぐ行かないで、「行っときます」って、

すぐに慌てて行けばいいのではないのでしょうか。何をやっているのか。管理業務の価値がないです。町民は怒りますよ、本当に。

それから電気自動車の充電設備や設置があるのですが、テスラ6台、一般充電3台。これはどのような経緯で、そして町にはいくらのお金が入るのですか。

(町長)

充電器につきましては、町でお金を出さずに機械を取り付けていただく業者さんを募集させていただきました。そして、2社が、お金を出さずに町では負担をしないで工事をさせていただいて、それで進めている台数で今のところ来ております。

前回の1台の時には、町でつけるにあたり、お金を出していただければつきますよという業者さんがいたのですが、そうではなく、町の負担なくして付けようということで、2社さんに手を挙げていただいたところを選定したところでございます。

(観光商工課)

利用料につきましては、その充電器の実績に応じて、その充電器を設置した業者から、町へ使用料としていただいているところです。

(質問者)

電気代ということですか。設置場所もよくないと思います。一番奥のいいところでマルシェのすぐそばですから。そうではなく、いろいろなところを見ていると、だいたい設置は入り口が多いです。それは通っていても外から、「充電機あるな」と見えるから利用がある。あそこにテスラの充電器が6台あって、使われているのは1台2台ぐらいです。一番多くて3台に入っていました。ですから、6台ももったいないことをしなくてもいいのではないか思いましたし、設置場所の設定も良くないなと思いました。

3 広域避難所の看板設置について

(総務課)

(質問者)

広域避難場所の看板設置ということで、私の自治会は町外からの移住者が多くいます。土地勘がなく、災害が起きて避難するにしても、場所がよくわからないということで、避難場所の看板、また電柱に避難場所への矢印なり誘導の看板を設置してもらえないかという意見がございましたので、それを提案させていただきました。ご検討のほど、よろしくお願いいたします。

(町長)

町の場合は広域避難所という扱いではございません。広域避難所の扱いといたしましては、大地震等が発生した時に広域的火災延焼が多発して延焼拡大が起こる、地域全体が危険な場所ということで都市部での指定になります。

町においては、国の基準を再点検しており、今年度においては避難所指定の見直しを進める年として予定をしております。その中で町の避難所につきましては、指定避難所と一時避難所という区分でございます。こちらにつきましては、各世帯に配布しております防災マップや町のホームページ等で確認できるようにしているところでございます。

また、移住された方につきましても、転入届があった際に、町の担当窓口において、防災マップを配布しております。そして、スマートフォンをお持ちであれば、全国避難所ガイドというアプリがございます。これは外国の方々が日本語ではないバージョンでも見られるアプリがございます。自分がいる現在位置情報が地図上でわかり、さらに、周辺の避難所も指示されます。また、移住された方や観光に来られた方々も迅速にかつ有効に活用できるため、このアプリを優先的に周知しているところでございます。

避難場所につきましては、看板の設置等というお話がございましたが、大雨や土砂災害、地震、火山噴火等の災害の種類によっては、表示が異なることがございます。ですから、効率的なことを含めた指示をしているところでございますが、もっと深掘りして調査をしてみたいと思います。これからのマップについても、他市町でよい事案や似たもので見やすいものがあれば、ぜひ担当課にもご連絡いただければありがたいと思っております。

今の那須町の現状としては、このような形で観光客や移住された方々には伝えているところでございます。

(総務課)

おおむね町長が話したとおりですが、広域避難所について、防災マップは、皆さんのところに配布させていただいており、防災マップに指定避難所や一時避難所という場所が書いてあります。その中で広域という欄に丸がついており、誤解を招いている部分がありました。また、いくつか河川の浸水想定区域など増えた部分がありますので、今年見直して、来年皆さんに配布したいと思っております。

4 通学を使う道路の安全確保について

(総務課・学校教育課)

(質問者)

私は那須町で、あちこちに顔を出させていただいて、ボランティアといいますが、皆さんのお手伝いをさせてもらっています。その中でいただいた意見の1つです。

大沢地区から大谷の方向に県道68号があるのですが、余笹川、大谷開拓橋を渡りきったところで、大谷に向かって右側でしょうか、右の山を越えると、あえて部落と言わせてもらいますが、萩久保という部落がございます。その部落の中でも高齢化が進んでいて、お手伝いをさせてもらっています。そこでお話をいただきました。

小学校、中学校の児童生徒が多分2人だと思うのですが、その2人をお父さんお母さんが共稼ぎなので、おじいちゃんおばあちゃんが旧大沢小学校、バスの発着場まで毎日送迎をしています。その萩久保から大谷、旧大沢小学校に行くまでの道がすごく細くて、途中、安全確保といいますが、見えるカーブミラーなども全くなく、特に今その山から大型ダンプ車が土砂なのか土なのか分からないのですが、1日何回も往復するので、ご高齢の70代後半から80歳の方が「毎日運転して孫を迎えに行くのに非常に怖くて、どうにかしてほしい」と言っており、代理でここに出させていただきました。

カーブミラーをつけてほしいという話も一つあるのですが、追加で言わせてもらいます。冬場は雪が深いところなので、難しいかもしれないですが、大谷の方に通学バスの発着所といいますが、止めるところがあると思います、そこにバスを止めに行くのでしたらほんの1キロ、2キロなので少し寄り道してもらえればと思います。ドアとドアまではいかないですが、ご高齢の方の運転のリスクというのでしょうか、農作業もされているのでその時間作業が止まってしまい、非効率だという話もあります。「もしできるのであれば、通学バスのルートの変更を検討していただきたい」というお話もいただいたので、代理でお話しさせていただきました。よろしくお願いします。

(町長)

この質問をいただいた時に、どの道を言っているのかということで、地図で調べました。県道から萩久保地区に入る道路ですね。その手前、萩久保に行くまでの間に、ここでおっしゃっているキャンプ場があり、そこは町道でございます。その先の旧暁星学園方面、こちらは町道ではなく私道になります。また、さらに奥に行き、りんどうの里という別荘地があるところも町道ではございませんので、なかなか難しいのですが、県道町道につきましては、カーブミラーの件は町でも設置に向けて検討してまいります。後ほど、担当課と私の方で、把握している内容が間違っているかどうかの確認をさせていただいて、スピード感をもって現地調査をさせるようにいたします。私もその道路は通っております。今、土取りをしている状況の場所もあるので、大型のダンプが入っているのかと思います。両サイドに崖があつての急カーブの場所、そこには何らかの方法でミラーをつけられるかと思っておりますので

検討させます。

それともう一点、スクールバスにつきましては、登下校のバスの乗車前と、下校時のバスの降車後の安全を確保するために、小学生においては保護者の方が停留所まで送迎をお願いしているところがございます。また、中学生においては、停留所までの道路事情等によっては送迎のお願いも対応していただきたいということで、学校と保護者の方と打ち合わせをさせていただき、了承をいただいているところがございます。

また、スクールバスのルートにつきましては、萩久保から出てくる方々は、おそらく旧暁星学園に行く前に県道に出たところの北沢というところに、停留所があると思います。その次にも、バケイションランドなどの入り口にも停留所があり、次が大沢小学校になっておりますので、もっと手前の広いところで乗り降りができるかと思います。

大変恐縮ですが、萩久保に入っていく道は、非常に狭い道路です。また、この要望はほかの地域でもいただいております。できるだけ子どもたちを歩かせないように、学校教育課でもルートに関しましては、通学距離や交通の安全性等を考慮しながら設定をしているところがございますが、限られた車両と運転手の確保状況の中で運行しているのが現状でございます。子どもたちが乗る場所によっては、奥に行かなくてよい場合には手前でということも考えつつ、毎年その子どもたちの状況に合わせてながら検討はしているところがございますが、なかなか一人一人のところまで行けないのが現状でございます。その方々も学校、教育委員会の方にご相談をさせていただきながら、進めていきたいと思っております。

もともと大沢小学校においては、統廃合で今の那須原高原小学校に来る際に、バスを出すという条件で皆さんにご了解をいただいたところがございます。今のところ、ご了解をいただいた内容で進めさせていただいておりますので、どうかご了解をいただくように、もし説明していただいても難しいようでしたら、また行政の方でも説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

※旧暁星学園＝旧大沢小学校

5 自然と開発の持続可能な共生のための仕組み作りの必要性について

(農林振興課)

(質問者)

2年半前に湯本に参りまして、実はまだ2拠点生活のような形なので、こういう場で発言をさせていただいていいのかどうか、わかりませんが、もう60年以上、こちらには毎年いつも来ているものですから、いち那須ファンということで、そこをお許しいただきまして、意見を言わせていただければと思います。

私が提案と言いますか、コメントさせていただいたのは「森をもっと大事にしないといけないのではないですか」という話です。

自然保護団体の方などいらっしゃいますし、それから、いろいろな町の政策や国の政策があるのも、よく存じ上げております。環境省の自然公園法など、こういったところでも、その規制があるというのがあるのはよくわかっているのですが、私が行政の方で何か手を打っていただけないかと思うのは、制度をつなぐその翻訳者がいないということです。

制度ではみんな森を保護しましょうと言っているのですけれども、例えば何パーセントかは開発の時に残さなければいけないなど通達などもっと細かい規定があります。那須の湯本地域は自然法では第2種の特別地域に指定されていますので、ここは単木選伐方式、つまり一つ一つの木を見て、この木は伐採していいかを確認して、本当は許可をしなければいけません。環境課の管理官のところに行ってみたのですが、結局そういうことは当然入れられていないし、おそらく申請をされるところで、こういうふうにやりましたと書類上はやったことになっていると思います。ですから管理官はそこまで見られない。それをまた管理官のところへ苦情がなければ、実際にどういう伐採をしたかというのは見に行きませんということのようです。ここをもう少し規定通りにやったら本当にいいのか、どうなのかということをお聞きしたい。伐採業者の方、あるいは工務店の方も基本的に何か開発されるとき、家を建てたときもそうだったのですけれども、ものを建てることを優先してしまって、周りの環境をどうするかあまり考えないので、「家の周り5メートルの位置を全部切っちゃった方がいいですよ」という話になってしまうのです。そこで、環境省はそれ通るのですかという話で、「まあなんとかなりますよ」ということで、環境省もそれでOKになります。うちの場合は「この木を切らないでくれ」「あの木を切らないでくれ」としたので多分工務店の人は、ものすごくめんどくさいと思ったかもしれません。それぞれの、いろいろな都合や、あるいは法律の規定どおりにはなっているけれども、実際には本当は残さなければいけないものが残っていない。こういう状態が実は今あるのではないかと考えています。私の住んでいるところ別荘地ですから、ここはもう別荘地の管理にはなるのでしょうけれども、申請は管理官のところに行っているわけです。そこはおそらく間違いなく森林を残して、今開発を進めているのだと思うのですけれども、でもどう考えても一気に木を切って、もうとにかくもう丸裸になっている状態で、確かに沢のところだけ残って

います。それは景観が良くないですし、森を残そうという意思是全く通じてもない。確かに制度どおりやっているのでしょうけれども。

ぜひ行政の方で、開発をする人たちにも、その開発を頼まれた業者の方にも、森林を残してほしいということを伝えていただけたらと思います。

また、観光振興基本計画や、今回、第三次の環境基本計画を立てられると思うのですが、町の中でも森林を環境資源という位置づけをされていないように思います。那須の森っていうのは、ものすごく素晴らしい環境資源だと思います。ですので、環境を開発することで、お客さんをいっぱい呼ぶことも非常に大事ですが、そのために本当の意味で欠くことができない環境資源を失っていくという非常に大きな矛盾があるかと思しますので、行政でも指導など、何かしていただければと思います。

(町長)

那須町の森林については町で、森林計画を策定しております。その中で計画の対象となっている森林の立木を伐採する場合に、事前に伐採及び伐採後の造林の計画の届出を行うということで、指導はしているところがございますけれども、なかなかそこに至ってないのではということだと思います。伐採が完了した時には伐採にかかる森林の状況の報告書はいただいております。しかし、今おっしゃられたように報告書が合っているのかということもあるかと思えます。できる限り担当課の方では報告書に沿って現地が合っているかどうか、すべてというわけにはいかないかもしれませんが、確認はしていくような形で、将来は厳しくしてまいります。

また、建物の建主さんの意向に沿わない業者さんがあった場合は、業者さんに伐採が難しいことを周知徹底しなくてはならないと思います。もし、お客さんの方が逆に綺麗にするために本当は全部切ってほしいと言った時にも、業者さんの方から少し残す、町を守りたいということも、伝えていただくような形をとっていただければと思っております。

町の計画だけでなく、場所によっては日光国立公園の中、そして林野庁が管理している部分もありますので、ここにおいては非常に厳しい部分がございます。枝を切るだけでも本来は書類を出してどの枝を切るか確認をしていただいて、その枝うちしかできない、根元から切ることができないという場所が国立公園の中にはございます。そういうところも我々も見受けた場合には、お願いはしていかなければならないと思っております。

特に、太陽光発電設備の設置の目的とする場合、0.5haを超える開発行為は、町の許可を受ける必要がございます。それと同時に、それを見えなくするために木を植えていただく、そういう指導も他よりは厳しくさせていただいているつもりでございます。今まで以上に、自然と共生のできる町として、担当課としっかりと連携しながら対応していかなければならないと、改めて思いました。担当課の方でも業者の方々にそういうお願いをできる体制はとっていきたいと思います。

(質問者)

姿勢を強めていくとか、形を整えていくということも非常に大事で、那須町の森林整備計画も、見させていただいたのですけれども、森林整備計画は森林を観光資源とは見ていなくて、どちらかというとならぬ林業を守っていく方に近い形での整備計画であると思いました。ですので、それはそれでとても素晴らしいと思います。今必要なのはおそらく、行政、開発をしていこうという人、自分で別荘を作っていこうとする人、地域の人たち、こういう人たちが話し合っ、どうしたら一番いいようにできるだろうかという協議です。1回1回設けるのは難しいと思うのですけれども。

町が許認可をこうしないと取れませんよという話ではなくて、「那須は森林が財産です。だからなんとか森を残すような形で開発してもらえませんか。」これを言うただけで、随分違うのではないかと思います。そういうことが業者さんにも伝わると、それは業者さんも「あの町長うるさいからちょっと考えるかと」となって、少しでも考えてもらえるような余地が出るのではないかと思います。私もどうすればよいかよく分からないですが、第3次環境整備計画を検討されるということですので、そのような方針を中に少し入れていただけたらと思います。

(町長)

業者さんの方にとということで意見がございましたが、別荘地につきましては、管理事務所がございます。管理事務所の中で、その別荘を建てるにあたっての縛りを作っておいてあります。町もできるだけお願いし、境界から何メートル離して建物を建ててください、また、境界からこの範囲は木を切らないでくださいということも、別荘の管理事務所さんからはお願いをさせていただいているかと思います。また、場所によっては、土地にあつての建ぺい率を何パーセント以内の建築にしてください、ということも謳っていただいているところもあるかと思います。

けっして軽井沢さんがだめというわけではありませんが、軽井沢さんが観光地としてとても発展しております。しかし、那須の観光としては、密集した建物ではなく御用邸がございますので、自然を守りながら、地域で住んでいただきたい。自分たちが那須町を大好きになるためには、今の森林環境を守っていかなければならないと思います。すべての皆さん、業者の皆さん、建築屋さんの皆さん、そういう方にも同じ気持ちで接していただけるように、行政からもお願いしてまいりたいと思います。また、いいアイデアがありましたら、ぜひお聞かせください。

6 会計年度任用職員の募集、応募、選考採用の在りに方について (学校教育課)

(質問者)

私からは、会計年度任用職員の募集を選考・採用のあり方についてお話ししたいと思います。公正や平等といった人権に関わる内容についてお話ししたいと思います。

町では、会計年度任用職員として1年ごとに職員を雇用されていると思いますが、学校教育課における採用に気になる案件がございましたので、そのことについて調べさせていただきました。その中で人権に関して問題があるのではないかとこの部分があったので、いろいろありましたが、1つ2つお話しさせていただきたいと思います。

まずは、募集をかけるわけなのですが、町は、例えば同じ試験を受けるにあたり、昨年まで継続でやっていた人と、次の年の新規に募集される方と、応募の締め切り日が違う。継続の人が先に締め切れ、その1週間後に新規の人が締め切りを迎える。その中で、継続の人の顔ぶれを見てから、新規の人に声をかけている。町の職員が声をかけているという案件が見られたので、それはいかがなものかとお話しさせていただいております。例えば、継続の人が応募する人が少なく、新規の人を増やすという話ならわからなくもないのですが、新たにある種の意図を持って、特定の人に町の職員が声をかけて応募しませんかと促し、それで採用される。実際の内容が変わってしまっているという事案がありましたので、そのことを私は非常に問題なのではないかと思いました。学校教育課の課長さんにそのことをお聞きしたのですが、町の職員が声をかける、特定の人に声をかけるということは何が問題なのですかと。お話を伺ったとき、耳を疑う内容が非常に多いので調べてみると、例えば、令和7年度でしたら令和7年度教育委員会関係町費職員選考委員会という委員会があるのですが、資料によってその委員会の名前が微妙に違っていました。そのことを聞いたなら、特に要綱を設置していないので、名前はどうでもいいのだという話があったのですが、人が人を選ぶような重要な委員会なのに、要綱が設置されずに、選考される方の気分で選んでいるのかということに疑わざるを得ません。人が人を選ぶということの重要性というのを、認識していただきたいと私は思うのですが、そのことについて町の認識をお聞かせいただければと思います。よろしくお願ひします。

(町長)

私が認識している範囲で説明いたします。令和7年度における学校教育課の会計年度任用職員募集の概要でございますが、教育活動、指導、助手をはじめ、15の業種に募集人員をかけまして、総数で56名とし、概ね次のような事務手続き、採用手続き等を進めてまいりましたので、お話をさせていただきます。

はじめに、募集に関する周知を令和6年11月末に町のホームページ、そして令和7年1月に広報那須で行いました。また、令和6年度中に採用されていた学校教育課の所属する会計年度任用職員の皆さまにも周知をさせていただいたところで

ございます。募集の結果といたしましては、56名の募集のところに71名の方の応募をいただきました。

次に、募集者全員を対象に担当所管課である学校教育課が書類審査と面接を行い、それぞれ応募をいただきました業種への適性や、また熱意等を踏まえた採点、選考をさせていただきました。選考結果を踏まえまして、教育長を含めた学校教育課の職員で協議し、採用、内定者を決定したところでございます。町といたしましては、これらの手続きにより、採用を希望された方に対しまして、公平な視点で選考し採用していると認識しております。私からは以上でございますけれども、担当課の方で付け加えることがあればお願いします。

(学校教育課)

先ほどの質問の中に、募集期間のズレというお話があったかとありましたが、こちらに関しましては、募集の受付期間については、1月27日月曜日までということで、これは基本的には同じ締め切りで募集はさせていただいているかと思えます。

その他、特定の人に声をかけたというお話でございますが、その話については前段がございまして、学校関係の会計年度の業種に関して興味を持っていると、町にお話をいただいた方に、こちらから今年度こういった募集がありますよということで、お話をさせていただいたようなことでございます。

最後の3つ目の選考委員のお話ですが、こういったこの内容につきましては、最終的に、先ほど町長からの答弁もありましたが、教育長をはじめ学校教育課の中で、面接選考書類や面接の結果、提出いただいた書類を、最終的にこういった方のお申し出をいただいて、こういった採点結果になり、最終的にこういった方を採用することでよいかどうかという内容の協議をしたということでございます。

(質問者)

まず町長がお話しされた56人の合格者という話ですけれども、私にきている資料では57人でできています。最初その数字が出てきた資料によって全部違ったので、そこを問うて、57人が正しいですという回答を得ていますが56人ですか。そこがずれてしまうと、話にならないのかなと思いますが。

(学校教育課)

はい。大変申し訳ありません。正確な数字としては56名でございます。

(質問者)

私に対して情報公開したその資料は間違いであるということによろしいですか。

(学校教育課)

情報公開請求の後に学校教育課の職員の中でも、職員の内容の数字の間違い等につきましては、その時にお話をさせていただいたかと思えます。

(質問者)

その時はお話を受けていません、初めて聞きました。56という数字は今です。

(学校教育課)

初めてということでございましたら、大変申し訳ございません。私の把握がしっかりできていなかったこと大変申し訳ございませんが、最終的には56名の方を採用ということで訂正をさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

(質問者)

2点目です。全ての人に対して1月27日に締め切っているとありますが、私の手元にあるこの資料では、継続の受験者に対して町から送られたメールの中には、提出期限令和7年1月20日月曜日提出、書類提出後に面接を実施しますとありますが、これはどういうことでしょうか。1月27日ではないですね。実際にこちら、受験者のところに届いていますが、そこを確認してもらっていいですか。もう実際に届いているので、その文書は間違いのない事実です。その検討の委員会の設置の要綱がないということはどういうことですか。何をもとに選考しているのですか。それは要綱がないということは決まりがないということでしょうか。そこに集まった方の中、雰囲気を選ぶのですか、この人どうしようみたいな。そういう話ですか。

(学校教育課)

決して雰囲気を選ぶということではなく、最終的に先ほども申し上げましたが、選考した結果と、ご提出いただいた書類をその中で再度確認をし、最終的に選考をしたということでございます。

(質問者)

では何を根拠にして、順位をつけたのですか。要綱も何もないということは元となるものがないではないですか。例えば陸上競技だったら、一番早くゴールにたどり着いた人が1位ですし、一番遠くに投げた人が1位ですが、要綱がなければいかにようにもできてしまいます。それは平等でもないし、公平公正でもないし、あるまじき事態だと思いますが。実際にその委員会のメンバーはどなたですか。学校教育課に聞いたら、後でご連絡しますと言ったきり、一切連絡が来ないのでどういう状況で選考が行われているのか全くわからない。これは納得できません。これは人が人を選ぶという大事なことなのです。いい加減なことでは困ります。その人の人生が変わったりしているのですから、それを認識してもらわないと困ります。

(学校教育課)

決して安易に選んでおりません。先ほども申し上げましたが、すべての方に平等に面接をさせていただき、得点化、数値化をさせていただいて、順位付けをさせていただいた内容を、最終的にそれらを以って協議をしております。

(質問者)

もう一点ですが、先ほど声をかけた、かけていないの話であらかじめ声をかけられていた人にはかけたという話なのですが、それは、その年度のさらに前の年度に募集した時に、声をかけた人に対して声をかけているのかという話で、そこは完全に町が把握できていないはずですが、それはその時点で公平ではないのではないのでしょうか。特定の人にだけ声をかけてしまっているのが、公正に公平に声をかけるのであれば、町の広報に出すとか、ホームページ上で出すとか、そのような方法で選ばないと公平性が保ってないと思いますが、特定の人に電話をしているとはどういうことなのでしょう。

(町長)

最初に私もお話したように、町ではホームページ、広報等でもお知らせして、興味のある方や会計年度任用職員として勤務していた方などで話を聞いた方に声をかけたということです。それは不公平感があるのではないかとということでございますけれども、可能な限り募集をしていますということを皆さんに知っていただきたいと思っております。先ほどの何を根拠にということでおっしゃられたことに対して、お話しさせていただきますと、採用するにあたって、会計年度任用職員にあたってはテストがございません。人間性や、15の業種に対してどの部門に希望を持っているのか、また、意欲を持っているのか、そして皆さんとのバランス、そういうものを特に見ながら一般の職員の方の採用試験の面接でも、そのようなところも見させていただいております。そのようなことを踏まえ「誰が点数はいくつでした」という発表は町ではしておりません。これは那須町だけでなく、すべて、県の職員にあたって、おそらく、民間企業さんもそのような形ではないかと思っております。

私はいつも、職場は風通しのいい職場づくりということで、今日来ている課長、そして局長には、しっかりと町民の皆さんの声を聞くのは当たり前ですが、働く職員の声も聞くように話しています。そしてバランスが取れるように、みんなの輪を取れる、職員みんなで頑張っていくことにより、町が明るくなれる、我々がいつも笑顔で対応できる、そのような職場づくりをしようということで、採用にあたってそのような希望を取りながら進めているところでございますので、選考にあたっての視点は公平性をもって保ってやっていると認識しております。

(質問者)

みんなの和を重んじているというお話でしたが、それは取りようによっては仲間内で固めてしまうというお友達人事になりかねないのではないのでしょうか。

もう一点、点数が出ていないということですが情報開示では点数は出ています、名前は公開していません。その職種で1、2、3位と順位が出ています。これ以上という気はありませんでしたが、そういうのであれば、例えばですがある職種では、4名の受験者がいます。経験者を募った時点で3名の応募がありました。採用枠は3名です。3名の方が応募して、その時募集枠3名に対して応募者3名です。

その後、新規の方に応募しませんかと声をかけて4名にしたと。そしてその後順位づけを見ると、1位で受かった人は新規です。経験のない人が1位です。2、3、4位が経験者です。そのようなことにとにかく言いませんが、かなり不自然な結果でないかと思います。このことについて追及はしませんが、経験がない方が1位とはどういうことでしょうか。あまりにも不自然だと思いますし、町の税金を使って事業を行っているのだから、経験ある人が引き継いで仕事をしていったほうが一番お金がかからないはずで、未経験の方が入るとその方に新人教育をしなければいけないですし、仕事も滞りやすくなるため不用意にそのようなことをするべきではないと思うのですが、そういった結果が出ていることが私自身不可解なことだと思います。定員3名のところ、1名に声をかけてそれで採用が変わることはあまりにもおかしいことだと思います。会計年度なので古い方はやめて行ってくれとう方針であればそれでいいと思いますが、後から定員を超えるように一人に声をかけて、採用が変わってしまうのはおかしいと思います。

このことを町民の方に知ってもらいたくて、私は今日ここに参りました。ここで、心ならずの自分の夢が叶わなかった人も新たな道を見つけて、今そちらで邁進しているところですので、もうそこできっちり気持ちは整理したと思います。ただ、こういった事案があったことを誰も知らないまま進んでいっては、また同じことの繰り返しになってしまいます。また同じことが繰り返されて、それは日の目を見ない、誰も知らない状況で、悲しい思いをする、泣き寝入りをする、そういう人が増えないことを私は祈っております。以上です。

(町長)

今の件でございますが、町としては公平性を持ってやっている、私は自負しておりますので、町民の皆さんに誤解を与えないように、町でも行っておりますが、すべての方が合格するとはありえないということを募集した時に、ご承知かと思えます。

その中で、募集に外れてそれに対して公平性がないのではないかとということでございますが、そういうことに関しては、行政としてはあってはならないことですが、私はそういったことはないと思っております。もう一度課の方とも確認しますが、納得いくまで聞いていただきたい。町としては公平性を持って選考して採用していると思っております。その点を町民の方々、来ているの方々にもご理解をいただきたいと思えます。

7 那須消防署湯本分署の建物について

(総務課)

(質問者)

消防署がこの近くにあったのですが、消防署が最近、サファリパークの近くに新築されて移転されました。このデザインが疑問です。なぜかという、壁が曲がっていて、垂直ではありません。部屋で壁が垂直であれば考え方も正常です。ところが、壁が曲がっていると少し心理的に不安定になるという意見があります。

友愛の森にもそういう建物があります。友愛の森の方は、遊び心があって壁を斜めにしてそういう部屋を作ったということですが、友愛の森は問題ないと思いますが、ことが消防署です。消防署の人は、やはり正常な考えで、正常な感覚で、これから危険を冒して消防にあたるという職場の人です。そういう機能を重視することが必要ではないかなと思います。

壁を曲げると、コストパフォーマンスが悪いです。建屋は、垂直な壁であれば、コストも安い。遊び心でこの消防署を作ったということはないとは思いますが、この壁を曲げた、斜めにしたこのデザインは、どのようなデザインの哲学を持って建てられたのか、その辺をお聞きしたいと思います。そして今後やはり正常な感覚で、消防署の行動を曲げるようなデザインは避けていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(町長)

遊び心が過ぎるのではないかと、デザインの意図は、ということですが、これも、これは那須町が管轄ではございません。那須塩原市、大田原市、那須町の那須地区消防組合、これはその中の湯本分署になります。この建物は設計屋さんに入札等で手を挙げていただいて、デザインとコスト面を算出し落札いただいております。

そうは言っても、この那須地区消防組合の組合長が私となっております。組合長として、デザインに意図があったかということですが、上がってきた段階で「これでいきましょう」ということで決めたのが現状でございます。しかし、働く方々は、先ほどおっしゃったように昼夜を問わず災害や火災、遭難などどんな時にも駆けつける消防隊員でございますので、決して曲がった考えは持たずにこれからも真っすぐに町民のためにも市民のためにも、頑張ってもらいたいと思っております。

また、那須湯本分署の方がずっとそこにいるわけではございません。黒田原の那須消防署、太田原市、那須塩原市、いろいろなところに勤務先がございまして、そちらにも回ります。那須の湯本分署に来て、その分署で働いた方が曲がった考えを持たないように、しっかりと、特に指導していけるように、消防長にも伝えてまいりたいと思います。

このような考えを持っている方がいらっしゃるということは、我々も受け止めていかなければならないことだと思います。今回のご意見も参考にしながら、今まで

以上に湯本分署で働く方にはまっすぐに町民のために頑張ってもらうように伝えていきたいと思いますので、何卒ご了承くださいませと思います。

※那須地区消防組合＝那須塩原市、大田原市、那須町で組織される消防組合。

7月11日（金）ゆめプラザ・那須

1 社会福祉協議会の相談体制について	(保健福祉課)
<p>(質問者)</p> <p>社会福祉協議会の相談体制についてですが、端的に言うと、社会福祉協議会の中に入っている地域包括支援センターの相談についてです。結論から言いますと、土曜日、日曜日も、地域包括支援センターの相談窓口を開けていただけないかという意見でございます。</p> <p>背景を言いますと、私の母ですが、認知症がだいぶ進んだ、当時は要支援の2でしたが、土曜日の朝に自宅で倒れておりました。部屋で倒れていたのですがそれを見つけて、どういう事情で倒れていて、どんな状況なのか、本人に聞いても認知症が入っているものですから、うまく説明してもらえませんでした。いつも介護の関係については、地域包括支援センターの担当の方に丁寧に導いていただいておりますが、土曜日だったので相談することができずだいぶ焦りました。新聞を見て休日診療をしている病院に電話したのですが、「うちは診療をするところであって、相談を受けるところではない」と断られてしまいました。結局、土曜日、日曜日と非常に不安な気持ちで過ごしたわけです。月曜日にすぐ包括支援センターに電話して対応していただきました。</p> <p>介護の問題は、認知症などがある場合は本人がきちんと説明できないということもありますし、介護する方もいきなり本人が倒れたりするので、また、その介護の知識もないものですから、非常に不安になります。土日も開けていただき、「無理だけど、少し待ちましょう…」など、言っていただくだけでもすごく安心するものですから、そういう体制ができたらいいと思ひまして、こちらにご提案させていただいた次第でございます。</p>	
<p>(町長)</p> <p>土曜日、日曜日、祝日等の対応につきまして、社会福祉協議会宛に電話をいただければと思います。そちらには、休日の当番の職員を張り付けておりますので、その職員に繋がるようになっております。やはり急な相談等は必ずありますので、那須町の場合はそちらで対応させていただくようにしております。その辺が皆さんに伝わっていなかったのかと思い、申し訳ないと思っております。このような形で連絡等できますので、ぜひ、社会福祉協議会の電話番号も登録していただきたいと思ひます。当番制でしっかりとサポートしてまいりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>	

2 婚活関係企業、会社情報交換について

(生涯学習課)

(質問者)

婚活関係企業、会社情報交換の質問したのですがその後、公的に何かあったのでしょうか、また、効果はあったのでしょうか。

(町長)

企業間交流ということで、県が結婚支援事業として実施をしているものがございます。これは、県に登録した企業さんや団体向けに交流イベントなどを実施しております。町では登録等について県からの依頼に応じて周知を図ってまいりました。これからもそのように図ってまいりますけれども、令和5年度から町は企業間とは別に、西郷村さんと共催の婚活イベント「Nコン」を実施しているところでございます。令和6年度は町と西郷村さんを会場に計3回のイベントを実施したところでございます。その中で男性は那須町、西郷村にお住まいまたは勤務されている方を対象に、女性の方につきましては、どなたでも参加できるということで、今回男女各10名程度のご参加をいただきました。そして、3回イベントで計14組のカップルが誕生いたしました。令和7年度も引き続き西郷村さんと共同で開催し、結婚を希望される方々へ出会いの機会を提供してまいりたいと考えております。

また、令和6年度から那須町においては地域おこし協力隊が個別相談、スキルアップの講座、婚活イベントの実施をしているところでございます。令和7年度も各種イベントを通じて、出会いの場を提供していきたいと思っております。

3 女児のいる家庭への生理用ナプキンの助成について

(こども未来課)

(質問者)

女児のいる家庭の生理用ナプキンの助成についてです。

この話は、女児がいるご家庭のママさんと話題になります。やはり毎月平均で紙ナプキンや痛み止めの薬代で1,500円くらいかかります。その他に、今の子どもたちは月経前症候群の症状を軽くしたり、血液量を抑えたりするために毎日飲む、ピルといわれる薬がだいたい3,000円～4,000円くらいかかります。初潮が昔とは少し変わって、小学校5年生くらいで来る子も多く低年齢化しているので、閉経の平均が50歳くらいとすると、約40年間だいたい5,500円くらいの負担が続きます。

私も小さい赤ちゃんがいます。おむつ券は2歳、3歳までで終わりがあります。月経は始まってからずっと長く続くものです。私は女の子の中学生が2人いるのですが、毎日誰かしらが月経になっていて、もう本当ナプキンを買って、買ってナプキン代がかかります。

ここ数年、日頃からとても感じていたことです。今まで国でも話題にならなかったのかなと思ひまして意見が聞きたいです。

(町長)

経済的なものを先に話させていただきたいと思います。那須町では、子育て支援センターの窓口となり、令和4年の7月、3年前から町内に住所を有する18歳未満の女子がいる家庭で経済的理由により必要な衛生用品の購入に困難をきたしているお子様がいる方を対象といたしまして、衛生用品の現物支給を行っております。支給品の中には、今おっしゃってございました生理用ナプキンの他に、歯磨き粉、また、洗口液、制汗シート、ドライシャンプーなどがございます。この生理用ナプキンの支給についてのご相談等もあるかと思いますが、経済的以外にも、おっしゃっているように必要だということはあるのだと思います。これは那須町だけの問題ではないかと思いますが、私たちも真剣に考えなければならぬと、今の話聞いてわかりました。実は私のところにも、女の子の孫が3人おりますので、重々娘たちから聞いては分かっております。今後の対処方法や県、国への要望として考えていかなければならないと思います。

4 町バスについて

(総務課)

(質問者)

町バスについて質問させていただきました。

女性団体で研修活動などをするとき、たくさんの人を募りたいと思っても、町の車1台分ですとか、多くても2台分ぐらいということで、遠慮がちな活動になってしまっています。町を活性化するために女性がすごく活躍していると思います。会長の車を出したり、町のワゴン車を出したりではなくて、町のバスとして出していただけたら、もっと活発な活動ができるのではと思っています。

去年は、すごくいい活動をしました。車に分乗して出かけるといった感じで、山の上の方まで行きましたが、町のバスが出たらもっと人数を募れたのではないかとこのところがあります。他の団体でも会員がみんな高齢化していますので、個人の車を出すというのは「怖いかな」と思っている団体もたくさんあると思います。

町バスが無くなった経緯が理解できないわけではありませんが、なんとか1年に1回ぐらい、バスが出せるような形をとっていただけたら、もっと楽しく研修活動ができるかなと思います。

私は、さわやかネットワーク那須で活動しています。毎回研修を決める段階になると、町バスの話が出るものですから、今回みんなで町バスの意見を出そうかという話にまでなりました。よろしくお願いします。

(町長)

この会場以外でも2箇所同じような要望がございました。町のバスにつきましては、経年劣化等につきまして、耐用年数を迎えたことから、故障による修繕回数が多くなってきており、昨年の令和6年度に廃車としたところがございます。

廃車に伴いまして、新しい町有バスの検討を行いました。長期間の維持管理の経費等を鑑みて、町有バスの購入を今のところは見送りとしたところがございます。そのため、現在はバスの借り上げを行って、各団体等においてもご利用いただいているところではございます。バス会社への委託料が発生することから、町の予算の中で利用できるようにしておりますので、各団体におかれましては、担当課の方に借り上げたバスを利用できるようご相談をいただければと思います。有意義な研修をしていただいて、さらに大勢の皆さんを集めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

5 町有地公園の管理について

(財政課・ふるさと定住課)

(質問者)

町有地公園の管理について質問させていただきます。

私が柏に住んでまもなく40年になります。私が住み始めたころは同じように若い30代、40代がこぞって柏に家を建てました。その頃はみんな若かったので、公園の管理について自治会として、草刈や、枝の剪定などいろいろやってきました。ところが、時間が経過しまして、自治会の会員さんがだんだん減ってきました。ゴミゼロの日や河川愛護の日などに合わせて公園の管理してきているところですが、声をかけてもなかなか人が集まりません。去年はシルバー人材センターに頼んで、公園の草刈り等をしてもらいました。その費用については、柏自治会の年会費の中か支出しました。

今後も、ますます人が集まらず、管理が難しくなることも考えられます。町として町有地公園の管理について、どのような方向でいくのかお聞きしたいです。

(町長)

町が分譲した宅地に所在する公園ですね。

町有地の活用といたしまして、地域住民の皆さんのご協力により今までも管理、そして整備されている公園につきましては、できれば引き続き、地域住民の皆さんでの管理をお願いしたいと考えているところでございます。しかし、高齢化また自治会に加入しないということがあるのかと思います。これはこの分譲地内の公園だけでなく、各道路関係や地域内についても皆さんに清掃、草刈り、ゴミ拾いもしていただいているところでございます。これから考えていかなければならない課題だと思っておりますので、今後の課題にさせていただければと思います。

6 県道211号高久駅周辺安全確保について

(建設課)

(質問者)

この質問は、前町長時代から延べ4、5回ほどしているのかと思います。

県道211号線、バイパスから那須町に入ってくるメインの道路になろうかと思いますが、高久駅周辺の道路の幅が狭い上にガードがあり、少しネックだと思います。特に駅前のあたりは狭く、急カーブがあります。また、ガードレールの手前も急カーブがあり、ガードレールが傷ついたり曲がったり、年に1回か2年に1回事故も発生している、このような認識でおります。

当時は、高久駅の東側、役場側からまっすぐ行きバイパスに抜けて、高久駅の後ろまで行き、チサン(※)の方に入る道路につなぐというようなことで、事務所の方と交渉しているということでしたが、なかなか難しくてダメだということでした。

役場側から行って、柏団地の手前に東北本線を横切る鉄橋がありますが、その辺りから東北本線を越え山側の方に行き、新幹線の手前くらいから左折をして、国道の方から来た高久駅に来る道路につなげ、高久駅前の昔あった商店の後ろの方を通過して、チサンの入り口あたりに抜ける。そのようなことで地主の方と交渉を続けているという説明を当時の建設課長から聞いております。

今日の質問は、その後の経過がどうなっていますかということと、見通しはどうなっているかです。

センターラインもない、道路は細い、急カーブ、雨が降ったら水が流れる、雪が降ったらスリップ事故があるというようなことで、大げさな話ですけれども、那須町の住民として、他県の方から友達、あるいは関係者が来た時に少し恥ずかしい思いをしているというのが現状、私の心境であります。安全確保、あるいは事故防止の面からも、ぜひともパワーアップをして、早期解決に向けて総力を挙げて取り組んでいただきたいと思います。成り行きと今後の見通し等々について説明をいただければありがたいと思います。

※那須カントリークラブ(旧那須チサンカントリークラブ)

(町長)

路線の整備につきましては、ご意見がありましたように、東狸久保付近で東北本線をまたぎ、東北新幹線沿いに南下した後、町道池田高久駅線を経由して高久駅周辺につなげる計画で、令和3年度に地元説明会を行っていることを承知しております。

今現在、この事業を進めるにあたりまして、令和6年の11月には高久駅周辺の用地測量を発注し、今年度は同箇所において、用地調査、また周辺の補償を実施予定と伺っているところでございます。

この路線につきましては、黒田原に入ってくる車両が一番多く通っております。先日も、県への要望にはスピード感を持って早くやってほしいということで、お願いをしているところでございます。また、県だけでなく、国の方にも予算付けをお願いしております。

那須町の役場に来るメインの道路はどこだと思いますかと県や国の方々に聞くと、うまく答えてくれません。高久駅を通ってくるのか、りんどうラインを通ってくるのか、また小島から入ってくるラインなのか。やはり一番のメインは那須塩原を越して、国道4号から入ってくるところで、ここで右へ行けば、役場、黒田原、中心地へ向かう道ですよということは、しっかりと明記していきたいと思います。町民誰もがどこですかと聞かれて、この道に来てくださいと言えるような、そういう思いで要望活動をしているところでございますけれども、さらに力を入れていきたいと思います。

皆さんご承知だと思いますが、副町長は那須町の副町長になっていただく前は、県の土木事務所の所長、大田原土木事務所で経験していただいている方で、その点もわかっている方です。今担当している方々は副町長の後輩にあたりますので、私もスピード感を持って進めていけると思っております。

町はすでに土地の確保と工事する場所等は確保しております。また、できれば高久駅のクリーニング屋さんの方の狭いところから始まって欲しいということは要望しているところでございます。皆さんご承知かと思いますが、黒田原寄りのJRをくぐるところに町で工事に資材置き場など用意し、縄ももう張ってあります。十分、準備はしているところでございますので、そこも含めて県の方にさらにスピード感を持って、強く要望してまいりますので、もう少々頑張らせてください。

(質問者)

ありがとうございます。県会議員も那須町にいますので、ぜひうまく活用して、早期実現を切に切に願っております。よろしく申し上げます。

7 義務教育における英会話教育について

(学校教育課)

(質問者)

義務教育における英会話教育についてということでご提案させていただきました。

これは小学校1年生から中学校3年生までの義務教育の中の9年間で、各学校にALTの先生を1名配置するなどしていただいて、日々10分でも15分でも決まった時間、英語だけを話す時間を設けたり、ALTの先生がいつも学校にいてくださるってということで、英語に触れる機会が多くなる。そのようなところから、塾に行かなくても英会話のできる生徒さんが増えたらよいと考えて提案させていただきました。

那須町も観光のまちということで、外国の方などもたくさん来ていただいているので、その中で、小学生、中学生が英語を勉強したことによって、英会話の力をつけた子どもたちが増えるということも、那須町にとってはプラスになるのではないかなと思います。よろしくをお願いします。

(町長)

本町の教育委員会では、児童生徒の英語力の向上を図るために英語に触れる機会の充実は大変重要であると認識しております。町内の小中学校8校において、今、5名の外国人の英語指導助手を配置しております。そして、授業への参加や、また校内でのコミュニケーション活動などを通じまして、実際の英語に触れる機会を提供しているところでございます。今後も、外国人英語指導助手等の活用をさらに推進してまいりたいと思っておりますし、多様な形で英語に触れる場を確保していきたいと考えているとともに、教員の研修やICT教育の導入など、英語教育の質の向上にも努めているところでございます。

子どもたちはタブレットを持っております。タブレットでも英語とも触れ合う機会も多くなりますので、英語に対しての指導助手は必要だと思っており、これからも力を入れていきたいと思っております。

※ALT＝外国人英語指導助手

(教育長)

皆さんが本当に喋れるようになったらいいだろうなと思います。読む、書く力は、日本の高校生はレベルが高いと言われております。ただ、話す、聞くはどうも劣っているのではないかとということで、国でも対応しております。何をしたかということ、まず今回の学習指導要領改訂において、小学校3、4年生が、外国語活動ということで、ALTなどの先生の授業を受けるものになりました。また、小学校5、6年生は教科としての外国語を導入し、授業を行っています。さらに、国の方でも、英語の授業をするときは、小学校も中学校もオールイングリッシュで行うよう勧めています。

先日、中学校の授業を見ましたらほぼ英語でした。しかし、時々日本語も出ます。

理由を聞いたところ、「理解してない英語で何をやっていいかわからない」ということですので英語だと難しいと言われました。今、英語の先生は英語で授業を流しております。また、教科書がずいぶん変わってきています。これは英語だけではありませんが、子どもが主体的に学べるようにということで、どの教科も教科書をめくるとQRコードが付いています。町で使っている6年生の英語の教科書を持ってきたのですが、至る所にQRコードが付いています。子どもたちはタブレットを持っていますので、タブレットで読み取ると、英会話がどんどんページの中で出てきます。ですから、一人で主体的に学べるような環境を作るということで、教科書会社のほうもかなり変わってきています。また、文部科学省は、小学校5年生～中学校3年生の児童生徒の英語学習用デジタル教科書というのを昨年度から配布しています。そちらの方でも、視聴覚に訴えた学びができます。

おっしゃいますように、この那須町の教育で英語が学べるよう、身につくようにできたらいいということですが、先ほど町長からありましたように、那須町ではALTを5人各学校に配置しています。中学校は常駐です。ネイティブの英語を聞いてもらい、また会話できる機会をたくさん作るということでもあります。その他、那須町では、福島県天栄村の方にあります、小学生をブリティッシュヒルズに希望者20名、毎年送っています。そこは、すべて英会話で1泊2日過ごします。海外派遣も中学生を対象に希望者16名で行ってききましたがコロナで中断してからまだできていません。できれば自分としては、本物の英語に触れる機会を作りたいと思っており、ぜひ予算要求をしていきたいと思っています。さらに、那須町では、英語検定3級受験者に受験料を1回無料、そういった取り組みも行っています。

「義務教育9年間も英語やっても話せるようにならないんだよな」とよく言われます。でも普段、授業以外に使う機会がありません。いざ使う機会になったら、子どもたちは本気になって勉強しますので、話せるようになると思います。町の取り組み、国の取り組みを少しお話しさせていただきました。

(質問者)

色々な取り組みをやってくださっているようで、ありがとうございます。小さい町だからこそできる教育、きめ細やかな教育があると思いますので、引き続きよろしくお話ししたいと思います。ありがとうございました。

8 自治会会員減少による地域活動の難しさについて

(総務課)

(質問者)

自治会の問題ですので本日ここでは解決策などは出ないかもしれませんが、自治会長会議等で検討していただきたいと思います。

各地区とも、退会者等が増えて約4割位の人が退会しているという自治会もあると思います。6月12日に、那須塩原の市長さんが新聞に載っておりました。その記事では那須塩原市の4割ほどが自治会に入っていないという話でございました。

なぜ自治会に入っていないと困るかという、本日のこのような会議の通知もこないわけです。それから、町広報紙も届きません。公民館だよりも回りません。ということは、町全体で情報が6割にしか届いていないということです。そういう中では、自治防災組織構成や高齢者の見守り活動などがなかなか難しくなってきます。

特にこれから高齢者が増えると退会者が増えるのではないのでしょうか。本当はその高齢者ほど自治会などとかかわりが必要で、近所同士で見守りができます。高齢者が数多く抜けると余計に孤立してしまうということになります。

町の地区に助成金を出すことはなかなか難しいと思いますが、ぜひ、自治会長会議のような中で、十分地域の情勢等をくみ上げていただいて、極力、自治会に加入する、促進するというような要請をしていただければと思っております。

(町長)

今おっしゃられたとおり、自治会の加入率につきましては、低下しております。これは那須町だけではございません。全国的な問題となっております。当然町においても転入者などの新規加入率の低下が課題となっているところでございます。現在町では自治会独自の加入チラシ作成や地域行事の開催など、自治会加入のメリットを発信するための経費を支援しているところでございます。

那須町に合うかどうかはわかりませんが、町によっては若者たちに対する加入促進の取り組み事例等がございます。例えば現在のところ、他の自治会としては、回覧板のLINE活用による発信、また、会費の徴収を電子決済で行うなどの取り組みをしている事例もございます。いろいろな手を使って自治会に入っただき、自治会に入っただくことで、自分に何かあった時のつながり、行政とのつながりが必要だということをおわかっていただければと思います。

私たちもこの那須に住んでよかった、那須町に来てよかった、そう思ってもらい、町民を守りたいと思っておりますので、今後も町内の自治会の取り組み事例等、他の自治体の事例等の情報収集も行いながら、町自治会連合会を通して、各自治会での情報提供を行ってまいります。

また、相談事項がございましたら、各自治会長さんを通して町に相談できる、こういう体制がもう一度必要だと思っておりますので、やはり新しく来た方にも同じ思いを持っていただけるような努力をしていきたいと思っております。

(質問者)

新しく那須町に来られた方たちが子育てしやすい町、というような町にぜひなっ
ていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

9 高齢者専用の会社づくり（要支援の方など）について

（保健福祉課）

（質問者）

那須町で25年間働いております。主に福祉関係で25年間、今も働いています。

高齢者専用の会社の企画要請という形で考えました。具体的に何かというと、おおよそ皆さん、介護保険を受けると、要支援1や要介護1などと思えますが、自動的にといたしますか、介護サービスを使うようになります。それで、介護保険サービスを使うと、毎日ではなく週1回とか、週2回とか、週3回、ショートステイはお泊り、デイサービスは通いで、訪問介護はヘルパーさん、福祉用具で用具のサービスを受けるかと思えますが、その他は在宅です。家にいると、本当は本人にできることはありますが、家族さんからは、例えば「一人で外に出ると転んで危ないから外に出ないで」「ガスは危ないから使わないで」やこの時期とかになると「外に出ると熱中症になるから家にいて」というお話があって、家の中で生活することになると思えます。そうすると、何をしているかというともできない。寝床で横になっていたりと、こたつに座ってテレビを見ていたり、こたつに横になっていたりと。そうして1日が終わってしまうといったことになります。中には趣味や知人が来たり、草むしりなどをしている人もいますけれども、何もしないで終わってしまうとせっかくデイサービスなどで身体機能の向上を図っていても、何もしないとやはり認知面の低下や身体機能の低下とかが出てきてしましまして、結局は介護保険のサービスを増やす、ということにつながりかねません。そうすると、介護保険料の増加につながってしまうので、私としては、できれば要支援1や要支援2の方が働ける場というのを作れたらと考えておりました。

25年間くらい働いていると、いろいろできる方がいることがわかります。料理が得意な方が多いです。漬物や炊き込みご飯、煮物などもごちそうしていただいたりします。また、クッキーやケーキなどです。編み物、飾り物作成、お手玉を一緒に作っている、昔から竹細工をしている、商業科を出たので計算が得意な方や細かい手仕事が好きだという方もいらっしゃいました。そういう方がいるので、もったいないと感じておりました。ですので、そういった方を受け入れる場所があればいいのではないかと思います。例えば空き家を利用し、地元の会社に協力していただいて、会社といたしますか作業場で何か簡単にできるものを行うという仕事など。介護士の資格を持っている方や看護師の資格を持っている方が従業員としてサポートをしていくという形にしたいと考えていたりしました。

そういった仕事をしている中で例えば要支援1の方や要支援2の方が、すごい企画を持っている方がいるかもしれず、独自の仕事も見つかるかもしれないということにつながるかなと思います。本人さんのやりがいや生きがい、仕事の楽しみ、喜び、交流もできます。その方の居場所、仕事の責任感、また孤独の解消、生活のリズムの安定、身体機能、認知機能の低下の予防と家族の負担の軽減というふうにつながるのかなと思います。こういった方が増えることで、介護保険サービスを減らすか、今のまま維持して利用しない方が出てくると思えますので、そうすると介護

保険料の抑制につながると期待できると思います。おそらく那須町も今65歳以上の高齢化率43%を超えているかなと思います。数年後、数十年後50%になるかと思いますが、そうするとおのずと介護保険料も増えていくので、その抑制を考えまして、提案という形で発表しました。

(町長)

本当に貴重なご意見をありがとうございます。今おっしゃられたように、町の高齢化率でございますけど、2010年の時には、28.3%でした。そして今、2025年においては43.6%に達しております。2040年には50%を超えるものと推計をしているところでございます。

また、介護保険サービスの費用につきましては2016年度にはおよそ23億5000万円、2023年には26億8000万円でございます。ご意見をいただきました内容につきましては、今後、社会福祉協議会等と福祉のまちづくりや生活支援体制を整備する検討として、さらに参考とさせていただきたいと思っております。今ご意見いただきました、仕事を生きがいにしてもらえ、やりがいを持っていただけるような体制を担当課には参考にさせながら、今後進めていければと思います。

介護保険サービスの負担にならずに、また一生元気で働いていられる、そういう生きがいを持てるような、那須町でありたいと思っております。特に女性の方は、3年ぐらい前までは栃木で一番健康寿命が長く、今は男性の方が80歳ちょうどぐらい、女性の方が87歳ぐらいだと思います。元気でいていただくような政策にこれからも取り組んでいきます。

10 那須町小中学校部活動地域展開について

(生涯学習課)

(質問者)

先日の高原公民館に引き続き2回目のご提案ですが、那須町小中学校部活動地域展開についてお話しさせていただきたいと思います。

今、県も含め、全国的に部活の地域展開が進められていますが、町では、小中学校部活動地域移行検討幹事会、検討協議会というのを立ち上げて、話し合いを続けているかと思います。私はその幹事会のメンバーで会議に参加させていただいており、会議でいろいろ意見を出しているんですけども、教育長からダメだしの連続で、挙句の果てには論点が違うとまで言われてしまい、私は一体どうなのか、私の考えはおかしいのかと思っているところです。

町の方針を簡単に言うと、指導者を町は探さない、自分たちで探してください、あとは受益者負担の話は出てきますが、町がお金を負担するという話は出てこない。さらに、スクールバスは将来的に活動に関しては廃止してしまうので、保護者の送迎で対応してくださいという。私はそれに賛成できないので、いろいろ意見を言ってきました。

昨年の暮れに、その検討幹事会、検討協議会を通り越し、一切説明もなく、直接保護者を集めてこういう方針でいきますと説明会を行いました。我々も全然耳に入っていないような話で、寝耳に水だったので一体どういうことだと、いろいろ聞いているところです。なぜ町はこういう考え方なのか、私の考えは論点がずれているのかと思い、栃木県内全部で25の市と町がありますが、すべて調査しました。

3つの市町についてはホームページがすごく充実していましたので、それから情報を取りました。残りの21の市町に関しては、全部電話で事細かに学校教育課や教育委員会にお話聞きましたけれども、那須町と同じような考えのところは一つもありませんでした。具体的に言うと、指導者探しを市町がやらない、各部活動に委ねてしまうというような考えは栃木県の中で那須町だけです。それは本当にかかりです。

今年になって5月16日、部活動の改革に向けて議論を進めていた国の有識者会議というのがありますが、それで4回の会議があって、提言をまとめました。その中で、費用負担というのは、各家庭から払われる受益者負担と、公的な負担とバランスよく負担しましょう、ふるさと納税やクラウドファンディング、企業と連携してお金を捻出しましょう、スクールバスはもちろん活用し、さらに公共の交通機関も運行内容を見直して子どもたちが利用できるようにしましょうということが出されました。これは以前から私が町に申し上げていた内容と、ほぼ一緒です。この有識者会議の提言を受けて、町は方針を変えるのか、それとも今のままの流れを押し通すのか、その点をまずは伺いたしたいと思います。よろしくお願いします。

(町長)

町としての現在の進め方等についてお話しさせていただきます。町では、学校の

部活動の地域展開を推進するために、小中学校を中心に誰もがスポーツ、文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、地域に根ざしたスポーツ文化芸術活動の環境づくりを図るため、総合型地域スポーツクラブの設立を目指しております。この総合型クラブは、子どもから高齢者、さまざまなスポーツや文化活動を愛好する人々、初心者からトップレベルまで、それぞれの試行レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的、主体的に運営されるクラブでございます。このクラブ化により、当初は中学生の部活動の地域展開を主目的に行いますが、将来的には小中学校だけでなく他の世代もスポーツ、文化芸術活動ができる環境を整備していきたいと考えております。5月29日に総合型クラブを設立に向けて設立準備委員会が発足いたしました。第1回目の会議では設立後の安定的かつ魅力ある、総合型クラブの運営に必要な運営費の確保、指導者の確保、指導活動場所の確保、大会参加の確保などの課題について共通認識を図りました。その後、今年度の取り組みといたしましては、7月から始まる休日活動の移行テスト事業をはじめ、来年の夏頃の設立に向けて、多くの課題について協議を重ねて、部活動を地域で支える仕組みを構築してまいります。

(生涯学習課)

先ほどの町長の説明に、補足説明させていただきたいと思っております。先ほど説明ありました、設立準備委員会を5月29日に開催したということですが、その中で地域スポーツクラブを立ち上げるための課題を挙げさせていただきました。

大きくは先ほど言ったように、4つの課題を挙げさせていただいております。もう少し具体的に説明いたしますと、課題の中の運営費の確保については、町からの財政支援、受益者負担の公平性と今後の保護者の負担の目安、どの程度の負担が必要かというようなところですね。また、指導者の確保、スクールバスを活用した移動など、さまざまな課題を検討させていただいているところでございます。現在、それらの課題を受け、町が主体的に問題解決に取り組んでいるところでありますので、何卒ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思っております。

(質問者)

今話を聞いておどろきましたが、検討幹事委員会で年に何回も会議に出させていたにもかかわらず、何の説明もなく設立準備委員会が立ち上がっていると、初めて聞きました。我々のあれは一体何だったのだろうというような気持ちです。結局、地域移行を地域展開しようというのに、地域の人々が全然蚊帳の外に置かれていて、町の中で動いているのではないかという気がしております。

ただ、内容的には、国の有識会議の提言に沿った方向を目指そうとしている部分は評価できるかとは思いますが、我々も人間なので、その気持ちをないがしろにされると、少々残念に思います。

それに付随してお聞きします。他の市町では部活指導員という、県が補助金を出して会計年度任用職員のような形で、部活動専任でやる方を雇っていますが、那須

町は雇っていないです。調べたところ、雇っていない市町がありません。お金が出るのになぜそれを活用して普段から多忙な日々を送られている先生方の業務を少しでも軽減させてあげようという気持ちにはならないのか、というところが非常に残念なところではあります。

また、部活動地域部活動推進事業のところには3つの項目がありますが、前回、議会で話を聞きました。600万円ほど予算を持っているということですが、その中で、地域移行検討協議会の方で30万円、地域クラブ運営補助の方で100万円ほどで、部活動地域移行コーディネーターの話は出ませんでした。600万から引き算をすると、470万という金額が出ています。部活動地域移行コーディネーターは1名の雇用ですね。1日7時間で週4日勤務、時給1,700円でボーナスも得るという話ですけれども、どのくらい地域コーディネーターの方にお金が行くのでしょうか。600万円から引くと470万円。会計年度事業職員では破格の金額になってしまうのではないかと思います。その点をお答えいただければと思います。

(生涯学習課)

600万円のうち、部活動地域コーディネーターへの予算は約450万円です。それについては、指導、コーディネーターへの報酬、そして、役場が負担する社会保険料分が負担として入っていますので、約450万円という数字となっております。

1 1 スマートインターの周辺の整備状況について

(企画政策課)

(質問者)

スマートインターの周辺整理状況について、今から何年前かお話しがあったと聞いています。どのようにこれから考えていくのか説明していただきたいです。

(町長)

スマートインター周辺の整備状況についてということだと思います。現時点においては、具体的な開発計画はございませんが、広域・交通・ネットワーク環境を活かしまして、新たな活力づくりの基盤となる地域だと思っております。特に、関東と栃木県の一番最後、関東の一番最後がこの那須町でございます。隣が東北に入っていきますので、東北と関東を結ぶ重要な拠点となっておりますので、今後、運輸業を含む企業の物流拠点等として活用ができるのではないかと考えております。

1 2 幼児用ブランコの設置について

(生涯学習課)

(質問者)

余笹川ふれあい公園の幼児ブランコの設置についてです。

余笹川ふれあい公園は、ブランコが撤去されて長い間設置されていません。ブランコに乗りたい子どもの月齢を考えると、幼児ブランコの需要があると思っています。

せっかくいい公園がありますが、周りでは幼児ブランコがある近くの黒磯公園や白河市の関の森公園に遊びに行くという話を聞きます。

小学校に上がる年齢ぐらいの子どもですと、ボール遊びなど活発に体を動かす遊びなどをします。ブランコに乗りたい月齢の子どものために、おむつ型で包まれている幼児ブランコを1台でも設置してもらえないかなという気持ちがありましたのでお願いします。

(町長)

昨日、那須スイミングドームの視察に行ってきました。今おっしゃられたブランコにつきましては、危険ということで外してございます。こちらに関しましてはブランコを修理し再度設置したいと思っています。議員の先生方もいるので、ここでまだ予算が議会を通過しないうちに設置しますという話ではできませんが、これはやるべきだと思っております。現在は新しく幼児の遊具ができて、今度は幼児用ではなく少し大きい子どもたちが使える遊具の方も設置する予定で考えております。

昨日は大田原土木事務所さんに担当課の方で「このラインからはダメですよ、このラインからは結構ですよ」といった河川の区域の確認をしております。その範囲の中でも広い場所が取れるところがあるということで、今日打ち合わせをしたところでございます。

ブランコと同時に、もう少し大きい子どもたちが使える遊具も設置していきたいと思っております。こちらは議員の先生方からも要望をいただいておりますし、昨年度のこの集まりの中でも地元の方々の要望がありましたので、ブランコとは別に、大きい子の遊具の予算は、議会の方で通っております。このような形で進めてまいりたいと思っております。

1 3 会計年度任用職員の募集、応募、選考採用の在りに方について (学校教育課)

(質問者)

前回の高原公民館でお話をした町の学校教育課の会計年度任用職員の雇用の仕方といいますか、採用の仕方が不公平・不公正だったのではないかという私の話です。

町に情報公開制度を使って確認した結果、合格者57名ということですが、前回のお話で町長が56名という話になり、1人いなくなりました。そのような話はないと思います。

その話に付随してそちら案件も含め、3月議会に陳情という形で、議会の方にお話をさせていただきましたが、残念ながらその陳情は不採択になりました。ですので、全く受け入れられなかったのかなと思います。

人の採用なのに公開された数字と町長がいう数字で人数が合わない。57人と56人、1人行方不明というわけです。

これは、学校の教室だと大変なことです。57人の生徒が自分の教室にいて、56人になっても誰も気づかない。あり得ないことですが、それがまかり通っている。議会の方もそれは不採択になってしまったので、陳情した後に議会の方から、どなたか詳しく僕にその状況を教えてくれと、誰か来るのかと思ったら、誰も来ない、全く興味を示さない。

これを言わなかったら、そのまま世の中から葬り去られてしまう案件になってしまいます。ご多分に漏れず那須町も二元代表制という制度をとっていると思います。町民が選んだ町長と町民が選んだ町議会議員とそれぞれがいい緊張関係で、町政を議会の方できちんと監視して、正しく町政が進んでいくかどうかというのを見るというのはとても大事なことです。インターネットなど見ると、地方議会等でそれが馴れ合いになってしまい、緊張感が保たれずに行っているという話はよく聞きます。那須町はそうではないと思いますが、その辺はやはり緊張感を持って執行部の方も、議会の方もやっていただけたらと思います。

その56人についてはいかがですか。

(町長)

今募集人数が57名という人数だったと、お伝えしてありましたが、現実には56名でした。高原公民館の時に56名ということで、訂正をさせていただいたところでございますけれども、あくまでも子どもたちがいなくなるとか、そのような話ではないかと思います。確かに1名、募集する人数が57名とお伝えをしてしまったということは大変申し訳なく思っておりますし、56名が正しいということで、募集を57名というお伝えしたことに高原公民館の時も謝罪をさせていただいて、訂正をさせていただいたところでございます。

また、議会の方も我々も緊張感なく町政を行っているつもりはございません。町

民の皆さんから付託されて、緊張感を持って、我々もこの那須を素晴らしい町にしよう、その思いは変わりません。また、その採用にあたってもしっかりと公平性視点で選考して採用しているところがございますので、何卒ご理解をいただければと思います。

町民の皆さんにも、もし募集人数を誤って伝えたことが、謝罪の段階で訂正したことが伝わらないのではないかとということであれば、またその方々には、私からも謝罪をさせていただきたいと思っておりますので、1名の募集の間違ひにつきましては、改めて対応させていただきます。大変申し訳ございませんでした。

(質問者)

待ってください。ここに情報公開制度で通す回議書というものがあります。募集というお話でしたけれども、その文面を読みますね。「会計年度任用職員の任用内定について伺い、このことについて、令和7年度教育委員会関係、町職員選考委員会で協議した結果により、必要要件を満たし、資質及び能力にも能力ともに十分であることが認められた。別紙57名について、任用を内定してよろしいかお伺いいたします。」それに対して、11名のはんこが押してあります。教育長決裁です。募集ではないです。これ、「任用を内定してよろしいかお伺いします。」ということではんこが押してあります。

(学校教育課)

先ほどの情報公開請求ということで、以前、こちらの内部の決裁を得た書類を開示させていただいたところがございます。そちらについてですが、大変申し訳ございません。もう一度、内容をよく確認させていただきまして、ご連絡をさせていただければと思います。大変申し訳ございません。よろしくお伺いいたします。

(質問者)

この回議書は偽物ということですか。11人がはんこを押しています。皆さんこれを見て、OK、OK、最後に教育長もポンとはんこを押してありますが、56名とおっしゃる。

町の会計年度任用職員、学校教育関係で何名を雇用して、現実にいる人数がわかっていませんよね。57人って書いてあります。誰か途中で辞めたらどなたか気づくと思います。おかしいではありませんか。

(学校教育課)

そちらについては、学校関係、学校に、配置されている方は56名でございます。そちらについては、私も前回ご質問いただいた中で確認の方をさせていただいたところがございます。その点についてもう一度、こちらの内容を精査させていただければと思います。大変申し訳ございませんが、確認をして、再度ご連絡をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお伺いいたします。

(教育長)

私たちも見落としした部分もあるかもしれませんので確認させてください。

(高藤局長)

先ほど、3月議会の陳情の中で、会計部任用職員の話があったかと思いますが、私たちが把握しているのは、いただいた陳情は、那須町小中学校、部活動、地域移行の検討に係る組織の健全な会議を求める陳情であるかと思いますが、会計年度任用職員の件ではなかったと思います。

会計年度任用職員の件がありましたのは、陳情に来ていただいた陳情者からの発言の際に、そういった会計年度任用職員の話があったのは記憶しておりますが、陳情の趣旨ではないかと考えております。

(質問者)

そうですね。趣旨ではないですが、私からのその陳情の説明の中で、そちらも学校教育課や生涯学習課における、不審な点の一つとして、お話ししたと記憶しております。

14 黒田原駅のエレベーター設置について (企画政策課・ふるさと定住課)

(質問者)

事前に提案していませんが、黒田原駅にエレベーターが欲しいというお話を、私たちの年齢が集まるごとに話題が出るものですから、一度提案してみたいなと思っておりました。

私も転入して3年ぐらい経ちます。最初は荷物を持って十分に余裕があって登りましたが、やはり徐々に階段が辛くなってきています。転入した方は車を手放して来ている方も多くございますので、その辺で話が出ます。もう少し買っていきたいけれど、階段上るのは大変だからこれくらいでやめましたという話を、みんなの店で時間が来るまで休憩したりしながらおしゃべりをしています。

町だけで実施できることではなくて、やはりJRが絡んでおりますので、それも人口が少なかったり乗り降りする方が少なかったりで、企画には当てはまらないかもしれませんが、これだけ高齢化が進んでいるから必要だということを国やJRに提案していただきたいと思います。

高齢の私たちが住んでいられないような状況に、若い人たちを転入させたり、誘致させたりして「あ、高齢になったら住めないところだな」と思われぬようなまちづくりをしていきたいと私も思っておりますので、その点よろしく願いいたします。

(町長)

黒田原駅につきましては、町でも、常にJRさんに要望はしているところでございます。こちらの所管につきましては、大宮支社になります。大宮支社に使いやすい駅ということで階段等も含めて要望はしているところでございます。JRさんからまだ要望の回答が来ていないところですが、近々要望に伺います。

全体的な黒田原駅の使い方について、無人化して使いづらい等もありますが、無人化の中にも使いやすさ、今おっしゃっているように、段差がない、解消ができないかも含めて、要望書を作っております。さらに皆さんの声を代弁していきます。町でも子どもから高齢者の方々に使っていただく。地元の方だけでなく、那須に来て、黒田原駅に降りてみたい、そしてそこから那須高原または東山道伊王野、芦野方面の文化を見に行きたい。そういうことの中核地がこの黒田原地区でございますし、この駅は私も大事にしていきたいと思っております。

事前質問

1 健康ポイント事業について	(保健福祉課)
<p>(質問事項)</p> <p>少子高齢化をどう生きるか。いわゆる認知症予防、健康長寿を生きながらえるために自助努力による「ウォーキング」効用を信じ毎日日課にして、医療介護や周囲のお世話にならぬよう専念していますが、この制度も3月いっぱい中止になってしまいました。もうすぐ90歳を目前にして先行きが不安です。どうすればよいのでしょうか。</p>	
<p>(回答)</p> <p>健康ポイント事業につきましては、令和7年3月をもって終了いたしました。令和3年度から令和6年度にかけて、多くの方々にご愛顧いただきましたこと心より厚く御礼申し上げます。</p> <p>町の健康ポイント事業は終了いたしましたが、栃木県の実施する「とちまる健康ポイント事業」を始め、ウォーキングのアプリを活用した同様の事業等もございますので、このような事業のご活用もご検討いただければと思います。</p> <p>町としましても、皆様が健康でいきいきと暮らせるよう、様々な取組を企画・実施してまいりますので、事業へのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。</p>	

2 吟詠の普及方法について

(生涯学習課)

(質問事項)

習い事で恐縮ですが、吟詠を習う方が那須町におりません。吟詠の普及に貢献したいのですが方法がわかりません。普及方法を教えてください。

(回答)

那須町文化協会では、年に一度、秋の時期に那須町文化祭として、文化協会に加盟している団体がそれぞれ発表を行っております。那須地区文化協会でも同様に年に一度、那須地区芸術祭として、那須地区の文化協会会員を中心に各部門が発表を行っております。

また、現在取り組んでいる部活動地域展開では、子どもたちの様々な活動体験が期待されております。希望者次第ではありますが、子どもたちに指導していただく可能性もあるかと思えます。その際には、ご支援いただけますと大変ありがたく存じます。

3 那須高原友愛の森について

(観光商工課)

(質問事項)

那須高原友愛の森の販売物の価格が高騰しています。今までは安価であったのに箱物にお金をかけ、地元向けではなく観光客向けの施設となってしまったように感じます。

予算等どうなっているのでしょうか。

(回答)

販売物の価格については、肥料や燃料費、原材料費などが高騰しているため、それらが価格に転嫁されているものと考えております。

また、地元向けの施設ではなくなったとのご指摘については、真摯に受け止めつつ、今後ご利用者の皆様のご意見をお伺いしながら、利用しやすい施設となるよう努めてまいります。

予算については、マルシェ建設費用の販売価格への上乗せ等は行っておらず、今後も同様に考えております。

4 居場所づくりについて

(こども未来課・保健福祉課・企画政策課)

(質問事項)

行き渋り、不登校、引きこもりがちの子どもや大人多世代の人がふらっと立ち寄って集える居場所を作りたいと思っています。

(回答)

居場所づくりをお考えいただきありがとうございます。

子どもの居場所づくりにつきましては、子ども食堂など3カ所あり補助金を交付しております。また、高齢者につきましては、高齢者の生きがいづくり支援の一環として、気軽に集える地域交流の場を設置する際の運営費等の補助や、社会福祉協議会に委託し、地域の福祉活動を支援するふれあいルーム運営事業、地域の支え合い体制づくりを推進するための生活支援体制整備事業をおこなっております。

そのほか、地域で抱える課題の解決に向けて、地域のまちづくり活動のための補助も行っております。各種補助がございますので、ぜひご相談ください。

5 商業施設の誘致について

(企画政策課)

(質問事項)

ぜひこの那須町黒田原地区に大きなショッピングモールを作ってほしい！

現在、近くの商業施設を利用するには、那須塩原市や白河市、大田原市まで行かなければなりません。もし、近くに大きな商業施設ができれば、すべての世代が楽しめ、便利な魅力のある町になると思います。もし、そこから循環バスが出れば、高齢者の免許証の返納にもつながります。

また、雨の日でも、暑い日でも、その施設の中でウォーキングし、健康維持が出来るのです！ぜひ、未来に希望が持てる那須町のまちづくりをお願いいたします！

(回答)

商業施設などの誘致の要件としましては、交通アクセス、周辺地域の人口密度や競合店舗の有無などが挙げられます。

町でも大型店舗や商業施設の誘致を試みましたが、やはり人口密度が大きなポイントとなるようで、平日の営業を考えると、観光客が多く訪れる自治体だからといって、そのことが有利には働かない場合もあるようでございます。

また、既に近隣自治体に大型ショッピングモールがありますが、店舗の入れ替えや撤退による空き店舗も見受けられますので、町に見合った規模感の誘致をする必要があるのではと考えております。

いただいたご意見はごもっともなものでございますので、引き続き商業施設等の誘致に取り組んでまいりたいと考えております。

6 おむつ券の交換可能商品の拡大について

(こども未来課)

(質問事項)

おむつ券で交換できるものは紙おむつ、布おむつ、おむつカバー、おしり拭きのみだが、ミルクや手口拭き、ベビーローション等のケア商品も交換できるようにしてほしい。

また、余ってしまったおむつ券を現金化または商品券等に交換できるようにしてほしい。

(回答)

おむつ券につきましては、乳幼児おむつ等購入助成券事業として、出産後に2万円、1歳の誕生月に4万円、2歳の誕生月に2万円を交付しています。

現段階では現金還元や新たにミルク券の導入は考えておりませんが、妊娠届出時に妊婦1人あたり5万円と出産後にお子さん1人あたり5万円の、様々な用途に使える那須町すくすく出産・子育て応援給付金を給付しております。出産後の給付金は、町保健師が訪問し給付しており、その際に産後のお母さんが抱える不安解消ができるように相談にも応じております。

乳幼児おむつ券等購入助成券事業の粉ミルク購入拡充に関しては、子育て当事者のニーズなどから総合的に勘案し、検討していきたいと考えております。

7 まちづくり懇談会での意見交換について

(企画政策課)

(質問事項)

懇談会でもっと気楽に意見を言わせてほしい。役場からの一方的な話では懇談にならない。自由に話せるようにしてほしい。

以前町長にメールで問い合わせしましたが返信なし。また、広報にもメールしたが返事なし。なぜか。

(回答)

昨年度まちづくり懇談会后にいただきましたメールにつきましては、町の回答として企画政策課広報広聴係から返信させていただいております。昨年度のゆめプラザ・那須を会場としたまちづくり懇談会では皆様からいただいたご意見・ご提案24件すべてに回答すべきと判断した結果、ご指摘のあったように、意見を交換し合う雰囲気は欠けていたと認識しております。

今年度は来場された皆様と意見交換ができるよう、開催方法を変更いたしました。進行の都合上、会場で取り上げられなかったご意見・ご提案への回答は後日町ホームページや広報那須で掲載を予定しております。

8 緑の保護と伐採開発について

(企画政策課)

(質問事項)

乱開発的な伐採が多く見られます。保護と開発どのようにバランスを取るのか、役場が進める放棄地開発の詳細と昨年末頃広報那須に出ていたミニ開発のような募集の結果報告を知りたい。

(回答)

「ミニ開発のような募集」というのは、町が土地の情報を募集している「事業用地等情報提供制度」のことかと存じます。この制度は、企業誘致の候補地となる土地や工場等の情報を収集し、町内に立地を希望する事業者へ情報を提供する制度です。令和5年度から制度を開始し、登録件数は、令和5年度11件、令和6年度5件で、令和7年度3件の登録があり、現在、14件が登録されています（R7.6.3現在）。引き続き募集を行っておりますので、有用な情報がございましたら企画政策課へお知らせください。

9 旧黒田原郵便局の建物保存について

(ふるさと定住課・生涯学習課)

(質問事項)

老朽家屋については、昨年度のまちづくり懇談会で意見提案があり「町としては、保安上危険な建物は、解体を促進している」旨の回答でしたが、「旧黒田原郵便局」の現状は、西側の屋根に大きな穴が開き、屋根瓦が崩れ落ち、正面玄関の庇が落ち、外壁のいたる所にヒビが入り、今にも崩壊寸前という姿を晒しています。

案内板を見るかぎり歴史的な価値があるようですが、前の歩道は通学路にもなっており安全な通行の確保が第一義と考えます。

歴史的価値は、画像や文書に留めて残すこととし、早急な対応をお願いします。

(回答)

旧黒田原郵便局建物は、昭和10年に建築されたものであり、昭和48年3月に現在地へ移転するまで38年間にわたり使用されましたが、東日本大震災時に被災し、ご質問のと通りの状況となっております。

町では、保安上の危険や景観悪化、周辺環境への影響などの観点から「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき「管理不全空家」として認定しており、所有者に対して管理指導を出しております。地域住民の方々の安全な生活環境を維持するため、建物の適正な管理に向けて、継続的に所有者への働きかけをいたします。

また、この建物は関東地方で最初のモルタル局舎として築90年を迎えております。当時の建築技術や美意識等を現在に伝える貴重な建物であるため、必要に応じて所有者・関係者と協議を行いながら、記録保存についても進めてまいりたいと考えております。

10 避難場所変更について	(総務課)
<p>(質問事項)</p> <p>旧朝日小学校の避難場所の件、逃室集会施設に変更の提案をしたが、変更の話はどうなっているのか。周知をしたのか。</p>	
<p>(回答)</p> <p>旧朝日小学校から逃室集会施設への避難場所の変更につきましては、逃室集会施設の管理者と一時避難所としての指定について、協議を進めている所でございます。協議が整いましたら、周知してまいりたいと考えております。</p>	

1 1 町民に広く開かれた町政について

(企画政策課)

(質問事項)

町民に広く開かれた町政を町長に望みます。まちづくり懇談会は、以前より狭くなり参加しにくくなっています。

各種の説明会も狭い地域の方に限られほかの地域の方はほとんど知らされていません。

多様な町民の声を反映する町政こそ活性化した地域をおこすと考えます。町長のお考えをお聞きしたいと思います。

(回答)

まちづくり懇談会は住民の皆様のご意見・ご提案を町政に反映することを目的とし開催しております。皆様からいただきましたご意見・ご提案につきましては、事業実施の方向性や優先度を定める検討材料とするなど、町政に反映させるよう活かしております。

各種説明会につきましては、事業の実施内容によりその事業が該当する地域へ説明会を開催することもあり、住民全員を対象に説明会を開催してないこともございます。しかしながら、町が主催する協議会や実行委員会等の団体の委員には地域や所属を代表する方を入れ、多様な声を聴くことができるよう努めているところで

す。まちづくり懇談会は住民の多様な声を伺う貴重な場です。皆様の声を聴き、町政に反映させるためのよりよい方法を模索しながら実施してまいります。

1 2 町内の農業について

(農林振興課)

(質問事項)

本年3月に公告された地域農業経営基盤強化促進計画(地域計画)によれば、町内の各地区の農家について、後継者不足と高齢化が主な問題として挙げられ、農地が小さいことや起伏が大きいこともあり、認定農業者や中心経営体への集積が進んでいない現状が示されています。

その点、少なくとも黒田原地区近郊ではすでに水田を中心とする耕作放棄地が目立っており、農業者の年齢層からして、今後も増加する可能性が大きいと考えられます。

地域計画のもととなる農業経営基盤強化促進法は、中心経営体等への集積を主眼にしたものと考えられますので、認定農業者や中心経営体を呼び込むことは計画としては当然の流れと思われれます。一方で、小規模で収益を目的とせず、自給自足を目的とした小規模な農業の在り方も長くこの地域に根づいてきたものと認識しております。販売を主目的としない農業、農地活用として、再生にコストのかかる耕作放棄地になる前の段階で、家庭菜園としての貸し出し利用や、現在の土地所有者の指導のもと、稲作の体験ができる場としての活用を図ることも、農地を生かす選択肢として検討されてよいのではないかと考えられます。

(回答)

10年後の地域農業の姿を描く「地域計画」において、担い手への農地の集積目標等の達成を図るため、定期的に協議の場を設け持続可能な農業を目指し計画の見直しを図ります。また、町民農園事業など那須町農業公社と連携を図りながら検討してまいります。